

## 第12回復興支援活動

(復興地に学ぶ会)

「復興地という場をお借りして

人としての生き方を学ぶ会」



石巻市立鹿妻小学校・周辺

2012.5.25－5.27

【第12回復興支援活動(復興地に学ぶ会)行程表】						
5月25日(金)	18:30	JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付				
	19:00	バス出発				
26日(土)	7:30	門脇小学校 到着予定				
	8:00	「門脇小学校を通して震災を感じる会」(約1時間)				
	9:00	ご案内(門脇小学校前校長 鈴木洋子先生)				
	9:30	鹿妻小学校 到着→班割り				
	10:00	活動開始→15:00終了				
		・10:00～15:00 校舎内トイレ掃除・校庭草抜き・学校周辺の清掃など				
		・金大竜先生→10:00～ セミナー開催 河北総合センター会議室				
		・大産大野球部員→13:00～少年野球教室開催(鹿妻小学校小鹿クラブ) グラウンド				
	15:30	体験発表会 & 藤坂先生体験談(前雄勝小学校教諭・プロジェクト結メンバー)				
	17:00	大川小学校へ向けて出発→ご冥福をお祈りする				
	18:00	道の駅(上品の湯)入浴+夕食=2時間				
	20:00	バス出発(帰路)				
27日(日)	8:00	JR尼崎到着 解散				
参加者年代別人数 (20代)24名(30代)5名(40代)12名(50代)2名(60代)2名(70代)1名						

## 第十二回「復興地に学ぶ会」体験記

★大阪府40代 男性★

今回も復興地に行かせていただきました。「日本を美しくする会」の諸先輩方、大谷先生はじめご準備いただきました先生方、安全にバスを運行していただきました神姫バス井上さん、新西さん、大変ありがとうございました。

◆①今回の一番大きな学びは門脇小学校での学びでした。鈴木洋子前校長先生の教えです。

門脇小学校は鈴木前校長先生のお計らいで、校舎の窓から現場を見せていただき、生々しいあの時を感じることができました。焼け焦げた校長室に職員室、あの時のままのランドセルに長靴、教室の掲示物。なんとも胸が痛む光景でした。

「すこやかに育て、心と体」鈴木前校長先生が立て替えて間もないものだったそうで、焼け焦げた校舎の屋上に掲げられたひととき鮮やかな青い文字、そのギャップにさらに胸が痛くなりました。鈴木洋子先生は、震災のその月末にご退職だったとの事、ご自身のイメージでは、着物を着て三月三十一日に教育委員会にごあいさつに行くつもりが、長靴にリュックサックといういでたちで、避難者からの花束と拍手で送られたと振り返っておられました。

あの日を振り返り、あの日と同じく避難経路を

たどりながら、多くのお話しをしてくださいました。

▼「みなさん、ひとたび大きな地震などが起きた場合には、電源が落ちますから、放送設備は使えません。肉声ですよ」▼「危機管理をしていたつもりでしたが、実はこの学校は海からこんなに近かったんだと今になってわかりました」▼「二列に並んで整然と歩く」▼「非常時には生徒名簿が必要」▼「何が大切といえは、日常生活での規律・規範意識です。ともすれば良くないものと思われがちな規律指導ですが、きちんと出来たらば誉めて、認める、そうして規律指導と規範意識を育てることが大切です」▼「耐火金庫にきちんとしまっておいたから卒業証書は無事でした。整理整頓の重要性」▼「避難訓練は真剣にやること、保護者への引渡し訓練もしておいたから混乱なくできた」などなど実体験に基づいての貴重なお話しをいただきました。

また、鈴木前校長先生はとても歩くのが早く、あの時もやはり早足だったのかなあと感じながら、ご一緒に歩かせていただきました。

今回は私たちのために早朝より、本当に気持ちを込めて多くのお話しをしていただき、多くの学びをいただき、本当にありがとうございました。一番は毎日の生活が何より大切であるということとを教えていただきました。

◆②今回は金先生のセミナーに参加させていただきました。

金先生には、宮城県内の先生方との交流の架け橋として一肌脱いでいただき、先生ご自身がセミナーを開催する、会場を手配する、参加者を募るなど、すべて手弁当でセミナーをしていただきました。セミナーの詳細は割愛いたしますが、「日本一ハッピーなクラスの作り方」というテーマでした。それは学級経営についての“How to”セミナーではなく、先生方もお感じの通り、金先生の人柄人間性を基盤とした、教師哲学、教師としての姿勢、志 についてのお話しでした。そして、そのすべての根源は、ご両親に対する尊敬と感謝の心でした。人としての原点、大切なことを教えていただきました。

ご参加された先生方は、本当に金先生にお会いしたかったようで、この日は石巻市内は運動会の学校も多く、参加できずに残念な想いの先生も本当に多かったと伺いました。次回以降の先生方との交流の本当に貴重な機会とすることができました。金先生大変ありがとうございました。お疲れ様でした。

◆③ご一緒にご参加された長野県太田先生より、お掃除サミットについてのお話しがありました。無言清掃のコツは？などの質問がありますが、「掃除にのめりこみ、集中して本気でやっている

姿、掃除とは自分を磨くこと。トイレ掃除をする  
と、結果的に無言清掃になるのであって、無言清  
掃ありきではない。トイレ掃除に向き合うことは、  
物事に向き合うことの姿勢のこと。だから、トイ  
レ掃除 を 学ぶ会ではなく、トイレ掃除 に  
学ぶ会である」ということでした。やり方ではな  
く、あり方を学ぶということ。被災地 に 学ぶ  
会、復興地 に 学ぶ会と全く意味は同じでした。  
金先生と同じく、“How to”ではない、と  
いうことを教えていただきました。

◆④藤坂先生からは、避難訓練では「今日の訓練  
は90点でした」という講評がありますが、実際  
にあるのは0点か100点、無事に保護者にお返  
しするというあたり前のことがいかに大切なこ  
とか、その時のやはり生々しいご自身の体験、経  
験、学ばれたことをお話しいただきました。

◆⑤ご参加された先生方からの学び

「とにかく、継続すること。継続力と根気」、  
「なんでもないことを続けること」、「目の前に  
やることあるわけではない、見えないところ  
あるやることを探す」、先生方のバスの中での  
話しに多くの学びがありました(ただし、体力の  
なさから睡魔との闘いもあり全てを学びきるこ  
とができませんでした。大変申し訳ございません  
でした)

多くの方々とのつながりを感じました。セミナ

ーに参加された先生方も、実はつながっていて、  
これまでの被災地に学ぶ会・復興地に学ぶ会の流  
れの中で、本当に多くの方々とのつながりをいた  
だきました。大谷先生の言葉を借りれば「なるのよ  
うになっている」ということを実感しています。

◆⑥最後に大川小学校。

藤坂先生は学校関係者として、学校や教職員が  
責任を問われていることに複雑な心境であるこ  
とを教えていただきました。先生の同期の方も、  
大学の同門の新卒で事務職員として入られた母  
一人子一人の娘さんが亡くなられたこともあり、  
胸を痛めておられ、より一層複雑な心境であると  
教えていただきました。

ご自身は雄勝小学校で無事避難することがで  
き、保護者に感謝されるが「大川小学校に比べ  
る」という言われ方をされ、とても複雑な心境で  
あるということを教えてくださいました。

また、大川小学校の保護者と雄勝小学校の保護者  
が同じ避難所(ビックバン…河北総合センター)  
に居たことも、とても複雑な心境だったと教えて  
くださいました。

大川小学校にて、お参りさせていただきまし  
た。周囲はすっかり片付けられ、それもまた心が  
痛む時でした。何度参らせていただいても胸が痛  
みました。

◆⑦復興地という場をお借りして生き方を学ぶ、  
それに尽きますが・・・

今回も多くの先生方から多くのお話、学びをい  
ただきました。ある先生とお話したのは、普通の  
日常がそこにあった。しかし、その日、その時、  
被災された場所、その場に遭遇した人、その一つ  
一つにそれぞれのストーリーがあり、想いがあり、  
あたりまえですが、ありますね、と話しました。  
そして、今また普通になりつつある日常がありま  
す。お話を聞けば聞くほど毎日を大切にしなければ  
ばと思う学びでした。

「おめでたい」にならないように気をつけなけ  
ればと思いましたが、現地の皆さんに多くの差し  
入れをしていただき、また、足を運んでいただい  
たりと、気づかない所でやっぱり「おめでたい」  
になっているのかなあと感じました。

日和山から見た景色は、穏やかな晴天で、  
表面的には復興している様を見せていました。今  
回学ばせていただいたことを目の前の生徒たち、  
そして自分の周囲の方々にお伝えするとともに、  
大阪に住む自分に何ができるのか、どう生きるか  
を考える宿題をいただきました。

大谷先生がおっしゃったように、復興地に学ぶ、  
生き方を学ぶとは、今回学んだ大きな学びと同じ  
で、日常生活が全てであり、いかに毎日を丁寧に  
真剣に生きるかということに尽きると感じまし

た。日々丁寧に生きたいと思います。今回もありがとございました。

★★熊本県40代 男性★★

第十二回復興地支援活動に参加させて頂きありがとうございます。参加を認めて頂いた大谷先生に心よりお礼を申し上げますと共に、日本を美しくする会のご厚意に対し深く感謝申し上げます。大谷先生のメールに「今までのような瓦礫撤去などの分かり易い復興支援ではありません。：引かれたレールに乗って、今まで活動させて頂きました。今こそ原点に戻り、心を寄せ続けていきたいと存じます」とあった。

「原点に戻る」この言葉は私の現在の心境とあてはまるものであった。なぜならば、昨年の七月末に一人で東北へ行き、多くの場所を自分の目で見、ボランティアに参加したのである。その後、活動を続けたいと思いつつもこの会に参加させて頂き、多くの縁、多くの学びを得ることができたのである。

しかし、余りにも素晴らしいレールの上に乗っかるだけでこれでもいいのかという思いもあり、三月末から家族で東北の地を車で周り、昨年七月同様に自分の目で見て、心で感じてきた。気仙沼、

南三陸、石巻と初めて行ったあの日の記憶を蘇らせながら、そして復興が進んでいて欲しいという強い思いを込めながらハンドルを握っていたのである。残念ながら、現状は厳しく、特に気仙沼の遅れは目立っていた。友人も「働く場所がないのが辛いし、気仙沼は他より遅れてる。もっと、雇用を増やしてほしい」と切実に言っていた。私は原点に戻り、もう一度自分のできることをやり続けようと決意を新たに今回の活動に参加させてもらった。

石巻に到着するとすぐに門脇小学校へ向かった。この日は当時の校長先生であった鈴木洋子先生から話を頂くことができたのである。いちばん印象に残っている言葉は「規律、規範のある指導を学校教育全ての場面でやらなければならない」と何度も強い口調で伝えて頂いたことである。このことが避難訓練に直結し、実際に命を守ることに繋がるということである。

「緊急時に放送が使えますか？」  
このひと言は今参加した人々の胸に残ったものではないでしょうか。

話を伺ったあと、校舎を拝見させて頂くことができたが、子どもたちの学舎である学校が当時のまま残っており、いまだに焦げたにおいが漂い、地震、津波の恐ろしさを物語っている。その中で卒業証書が綺麗な状態で残ったことは本当に奇

跡と言っていいたいだろう。

校舎をあとにした私たちは、震災当日児童が避難をした日和山までの道を歩きながら話を聞かせて頂いた。登り道であるので簡単なものではない。児童を避難誘導させられたことにより、地域の方も一緒に避難をされ多くの方の命が助かっているのがある。いかに校長先生の判断が的確であったのが分かってくる。今回、校長先生の話聞くことができたことは本当に貴重なものであったと言える。

この日は震災当日雄勝小学校で勤務をされていた藤坂雄一先生の話も聞くことができた。「避難訓練に90点はなく、0点または100点しかない」という言葉には考えさせられるものがあった。先生が経験されたことを言葉を選びながら、丁寧に話をして頂く中で思いや当時のことが心にしみてきて、涙が止まらなくなった。これから必要な「心の復興」にとって大切なお話を数多く聞かせて頂き、素晴らしい1日となった。

やはり、現地へ行かなければ分からなかったことばかりであるし、体が、心が覚えていく。だから、一度でもいいから多くの方に足を運んでもらいたい。私にできることは行動して、心で受け止め、東北のことを決して忘れることなく子どもたちに伝えていくことである。ひとり一人ができることを継続していくことしかない。

神姫バスの新西さん、井上さんに対し心から感謝申し上げます。「皆さんと思いは同じです。私たちにしかできないことで、お役に立てることができれば嬉しく思います」という挨拶のなかにプロのバスドライバーというだけでなく、人としてとても暖かいもの大切なものを感じることができました。本当にありがとうございます。

最後に、大阪産業大学野球部をはじめとする多くの大学生が大変活躍されていました。「小学生が名前を覚えてくれて嬉しかった。小学生のひたむきな姿勢から自分自身も頑張っていたかなければと思えました」このように前に進めば、何かを得ることができ、学ばせてもらうことも数多くあります。これからも若い人たちに負けることなく行動していききたいと思えます。

★★愛知県40代 女性★★  
被災地に行きたい。何かできることがあれば、手伝いたい。でも、瓦礫撤去の作業は、非力な私では足手まといになるだけだろうと躊躇していましたが、やっと、その願いが叶いました。しかし、私ができたことよりも、与えていただくことばかりの三日間でした。

実は、出発の週に、娘が急性虫垂炎で手術をすることになり、他の方に席をお譲りしたほうが良

いのではないかと考えました。しかし娘は、「大丈夫。お母さんの出発の日までには退院するから」と言い、またその言葉どおり、金曜日の朝に退院できました。はなから、子どもや、家族に支えられての参加となりました。

被災地の様子は、見ると聞くとでは大違い。まさに『百聞は一見にしかず』でした。テレビや、新聞や、インターネットを通じて、知ったつもり、わかっただけになっていましたが、実際に現地立って、自分の目で見て、空気を吸って、風を感じて、伝わってくる思いに、涙があふれて止まりませんでした。もちろん、被災された方々の辛さや苦しさを、全て理解することはできませんが、今まで以上に心を寄せて、自分に出来ることを考え、実践することが、自分にできる復興へのとりくみだと思いました。

だから私は、今回、自分の目で見て、感じたことを、必ず子ども達に伝えます。私の勤務する中学校の生徒は、ほとんどがかつて不登校であった子ども達です。中には、それまでの他人との関係に疲れ果て、自分も他人も好きになれず、自分を責め他人を責め、自分の心も体も大切にできない生徒もいます。そういう生徒達の支えになりたいと志願し、教員になったものの、生徒のあまりにも傷ついた様子に、何もできないでいる自分にはがゆい思いでいっぱいでした。しかし、これか

ら生徒達には、生きたくても生きられなくなったたくさん命があることや、それを悔やみ、悲しんでいる人達がたくさんいることを伝えます。決して、お説教ではなく。私の想いとして。また、今はまだ教室に入れないでいる生徒達には、この学校に来ようと思ったことが、もう前を向いて歩きはじめていることなので、私はそれをすばらしいと思いい、またその気持ちを大切にしたいと思っていることを伝えました。

私が何を守り、何を大切にするのか。  
子どもの命。

子どもが前を向いて生きようとする力。

以下、箇条書きですが、今回の学びを書きます。

#### ● 「門脇小学校」

まるで盾になって、火災から後ろの山を守ったかのように黒くすすけた校舎。三日間燃え続けたらしい。近づく、今まで見たこともないような壊れ方をした粉々のガラス。教室内は、強い力で上を下にひっくり返して乱暴にかきまぜたような当時の惨状のまま。掲示物も、書類も、子どものくつも、ランドセルもそのまま。津波から逃げ、高いところ高いところ上った子ども達の足跡をたどると、日和山の上は、実におだやか。津波の被害の有無で、全く違う様子。

鈴木洋子先生が仰った言葉。

『日頃の訓練(備え)が必要・大切』

そして、私にかけてくださった言葉。

「親御さんの気持ちに寄り添ってあげて。あなたには、それができるはず。」

子どもが辛いと、親も辛い。そして、親が苦しいと、子どもも苦しい。私にできること。若いスタッフが多い学校で、私にしかできないこと。

#### ● 「鹿妻小学校」

日常の学校生活を取り戻せるよう、復興への努力が進んでいる学校。トイレ掃除は、はじめてだったが、行動の全てに理由があり、機能的で無駄のない手順と、気持ちのこもった作業は、本当に気持ちよく、楽しいものであった。

#### ● 藤坂先生の体験談

当日の先生のご尽力の様子。『子どもの命を守る』という強い思い。震災後、『大人が弱くなっている。』という、子どもの声。だから、『自分達が頑張って生きていかなくては』、という決意のこもった、卒業生の作文。

#### ● 「大川小学校」

まるで三月十一日で時間が止まっているよう。おそらくは、地域の自慢であったろう校舎が、ズタズタに傷ついて残っている。周囲には何もなく、静か。子どもの、親の、教職員の無念さ。カラカラと回る風車の音に、胸が苦しくなった。

● 浅野さん 『子どもの心を守ること・あたりまえにできることから』

今こそ、そしてこれからの、子どもの心の不調が心配。サポートが必要なのは、今から。大人は子どもを思い、子どもは大人を気遣う……。どの方のお話からか、お互いに励ましあい、支えあう、暖かい心（こころ）と、強い絆（きずな）を感じました。

大谷先生はじめ、同行してくださった皆さん、バスの運転手さん、日本を美しくする会の皆さん、受け入れてくださった石巻の皆さまがた、鈴木洋子先生、浅野仁美さん……。今回お会いできた全ての皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、大きな学びをいただき、ありがとうございます。私も愛知の地で、できることをがんばります。そして、必ずまた伺います。これからも、どうぞよろしくお願いします。

#### ★★兵庫県50代 男性★★

帰りの温泉で西貝先生が「現地に足を運ぶことは感じる」とおっしゃいました。その言葉、とても印象に残りました。そう思い振りかえると、感じたことが多く残った三日間でした。

門脇小学校の校門の前に田仲先生と立った時、廃墟のようになった校舎に心が痛むと同時に、かつて子供達とその校舎で学び、身体を鍛え、友達や先生と心を交流させていたのだと思うと、自然

に涙が出てきました。その後、門脇小学校の前校長先生であられる鈴木洋子先生に校舎の様子、当日の避難などのお話を伺いました。凜とした中から語られる一言一言に、その当時の子供達の様子はつきりと心に映し出されました。「学校は授業をする所です。授業で規律ある中で学び多い学習をしていると、災害があっても落ち着いて身を守ることが出来ます。災害に対する特別な手だては勿論必要ですが、大切なのは日常の授業であり教育です」との言葉に身が引き締まりました。

その後、鹿妻小学校へ移動して、ボランティアが始まりました。小池先生の的確な指示と指導で、空き地のガラスなど不要物の回収を終えました。昼食は宮城掃除に学ぶ会や地元の皆さん、関わりのある皆さんからのご厚意で提供していただきました。日本を美しくする会を土台として大谷先生や宮崎先生が、この地で活動されてきたつながりからの豊かな昼食。ただ、レールの上を辿ってこの地に来た私には勿体なく、今までのご苦労と温かいつながりを思うと落涙の昼食でした。

午後は、プールの雑草を抜きました。「何かお役に立ちたい」という皆さんの思いから発する行動により、終了時刻ピッタリにプールの草は抜き終えることが出来、プールを使う子供達の歓声を聞いたようでした。

さらには、藤坂先生の御講話。多くの悲しみを

抑えながら冷静にかつ深い思いのお話は、心の隅々まで入り込み、被災した皆さんの声が届くように、涙が止まりません。

その後、大川小学校に行きました。私たちのバスが停車する時、ご夫婦らしい方が、犠牲者を慰める碑の前におられました。ご遺族の方なのかも分かりません。私たちと入れ替わるように車に乗られました。別れ際、一瞬、目が合いました。その目に大きな悲しみと怒りのようなものがあったことを感じました。このように感じたことは忘れません。

復興地に行かせていただき、テレビや本で感じられなかったことを感じたことが多くありました。藤坂先生が『みんなが幸せに生きるために自分は どう生きていくのか』ということをこれから最も大切にしていきたい』と言われた言葉を何度も頭の中で繰り返しながら、帰路につきました。その途中、レストランで浅野さんとお会いさせていただきました。千人以上の避難所をまとめ上げ、温かく混乱のない避難所にされた浅野さん。その目の奥には、温かで、それでいて静かな厳しさを感じました。この三日間、復興地での多くの出会いや学びの中で、自分の日常の思いや行動が全ての土台としてあるということであらためて教えていただきました。しかし、私のその土台には、ジグソーパズルのような穴が、幾つか空

いています。復興地で感じたこと、いただいた多くの言葉が、その幾つかの穴にピッタリと収まりました。今からの生き方、引き締め、「慎独」を心に、みんなの幸せにつながる生き方をしていきます。大谷先生、宮崎先生をはじめ、主催してくださった皆さん、参加してくださった皆さん、神姫バスの運転手さん、復興地のみなさん、日本を美しくする会のみなさん、本当に、豊かな三日間をありがとうございました。

★★奈良県40代 男性★★

「今行かねば！」

募集要項をネットで見た瞬間申し込みました。思えば震災から一年二ヶ月。遅すぎる参加でした。行こうと思えばいくらでも時間、労力はあったはずなのに。「行かない理由」を考えて先延ばしにしてきた自分への弱さをさらけ出し、生き恥を晒しながらでも行こう。そう思いながらの今回の会への参加でした。

思いつくままに今回参加しての感想を述べさせていただきます。

1. 「支援しに行くのではない。我々が学ばせて頂くのだ。」

大谷先生をはじめメンバーのみなさんから学んだことです。バス代を出して頂き、復興地の

方々からの差し入れや励ましのお言葉を頂き、結果元気づけられるのは我々である。「良いことしに行つたんだ。」と思つたならそれはなんとめでたいことか！大谷先生は出発に際し、そう「釘を刺され」ました。その通りだなあ！つてつくづく思いました。私は行きのバスの中で自己紹介の際、要旨次のように言いました。「私はたくさんの人に甘えています。でも『甘えている』と感じるのは感謝の気持ちを持つている証拠でもあります。帰りには『やっぱり自分はむっちゃ甘えるなあ』という思いを新たにし、自分の役割を果たす。それが『感謝』の表現に他ならないと思っています。」

今参加を終えてその思いを新たにしています。明日からの現場で、セミナーで多くの人に学んだことを伝えていこう！そう思いました。

2. 門脇小学校 元校長の鈴木先生のお話

「無線は使えなくなる」「出席簿を持ち出せ、引き渡し時に必要になる。」当たり前のように思えて、そうではない情報を頂きました。しかし鈴木先生のお言葉の中で一番響いているのは次の事です。「子どもたちに、いざという時に動ける力を身につけさせるために、普段からの指導の中で思考力や判断力、態度を養ってあげて下さい。」門脇小学校の高学年児童たちはブルーシートの上端を持ち、低学年をその中に入れて温めてあげたそうです。我が身に辛い現実のしかかっている



も、年下を思いやる行動ができる。ホンモノだな、と感じ入ってしまった。

翻って自分の実践はどうであったか？子どもたちから思考や判断をするチャンスを奪ってはいなかったか？門脇小学校のような子どもたちを育てていただろうか？も「命を大切にする」とは逆方向の指導を行ってはいなかったか？猛省させられました。

「訓練以上の力は発揮できない。」このことを肝に銘じて、日々子どもたちに向かい合いたいと思います。

### 3・鹿妻小学校での作業

午前中は近くの公民館建築現場で、瓦礫の除去作業でした。瓦礫といっても既に大きい者は撤去されていました。行ったのは地中に埋もれたガラス片や瓦礫などを手作業で取り去ることでした。二時間黙々と作業を続けました。子どもたちに日頃偉そうに「黙動しよう」と言ってるのです。二時間自分もその「行」に対峙せねばと思つてやらせて頂きました。差し入れて頂いた心づくしの昼食を頂いてからは、校庭花壇の枯れ木を掘り起こし、次にプールの除草作業をさせて頂きました。確かに肉体的にはしんどかったのですが、やっぱり有志とともに作業できる楽しさの方が勝っていました。心地よい疲労感！そんな感じで作業を終えました。とっても爽やかな達成感でした。

### 4・藤阪先生の体験談

すでに体験談を記した本を読んでいたが、やはりその方本人から聞く体験談は胸にしみいるものがありました。終始温厚な話し方の藤阪先生でしたが、一言一言響く重みを持つておられました。金先生のご提案でこの七月に大阪に藤阪先生をお招きすることになりました。たくさんの人に藤阪先生のお話を聞いて欲しいと思います。

### 5・大川小学校での黙祷

「半端な気持ちで行くところではない。」大谷先生の言葉に神妙な気持ちになる。近づくに連れてバスの中から言葉は消えていった。

大川小学校に着く。廃墟？荒野？流しつくされた川沿いの場所にひっそりと建っていた。もう誰も話さない。沈黙で降車し、線香を供えたただただ祈る。

そこに至るまでの無事であった他の地域とのコントラストが、一年と少し前に確かにそこにあったであろう多くの人たちの命や日常を一気に奪い去った津波の恐ろしさ、想像を絶する悲しさを強烈に物語っている。

実質一日間の行程でしたが、間違いなく私にとって大きな経験となりました。是非また行きたいと思いました。

正直夜行バスは苦手だったのですが、想像以上に疲れませんでした。おそらく回りが気をせる人

ばかりだったからだろうと思います。心の安心感  
は身体の疲労をも癒してくれるのですね。

復興地のみなさんからは勿論のこと、大谷先生  
をはじめたくさんの素敵な人たちの目配り気配  
り思いやりにたくさんの力を頂きました。

★★大阪府50代 男性★★

今回は、門脇小学校、鹿妻小学校、大川小学校  
と一日に三校の被害を受けた小学校に足を運ば  
せていただきました。石巻到着後、最初に向かっ  
た門脇小学校では、早朝にも関わらず鈴木洋子前  
校長先生が我々の為に現地まできていただき、当  
時の貴重なお話を聴かせていただきました。これ  
まで何度となくバスの窓から遠目に見ておりま  
した門脇小学校に実際に足を踏み入れることが  
でき、改めて当時の震災の凄まじさを実感する事  
が出来ました。そんな中、鈴木先生は、我々に当  
時の状況、思いを赤裸々にお話いただきました。  
そして教育の現場に立つ我々に対しての思い、子  
供たちへの教育のあり方をお話いただきました。  
また、今回は今も尚、足を踏み入れることができ  
ない門脇小学校の校舎の中を見せていただいた  
時に、二月に活動に入った牡鹿半島の雪の中の  
谷川小学校での活動を思い出しました。今回の門  
脇小学校は、校庭は片付いているものの、校舎の

中はほとんどそのままの状態でした。校長室、職員室、教室などを案内していただく中で、金庫の中にあった卒業証書がそのまま残っていたお話や、避難訓練が単なる訓練ではないけないという生の声も聞かせていただきました。また当日はマイクが使えないことを想定した訓練が大切であるといったお話を伺っていて、やはり日常を如何に大切に考え、瞬時的確な判断、責任のある行動をとることなどの必要性を改めて学ばせていただきました。そして当日子供たちが避難した日山までの経路を実際に歩かせていただき、鈴木先生の途中立ち止まってのご説明や当日の状況、鈴木先生のお考えなど、一つひとつがすごく心に響きました。印象に残ったのは、日和山に避難した時に、高学年の子供たちが、低学年の子供たちを気遣い、思いやる行動を取っていたお話には感動いたしました。切羽詰った中で子供たちの取った行動、心の優しさ、強さは日頃の先生方の教育の賜物であると感じました。

また、現地では、ドキュメンタリー映画「三月十一日を生きて」の事務局長の佐藤進氏、「ラジオがつかないだ命」の著者でもある鈴木洋子先生の旦那さんである鈴木孝也氏にもお会いする事ができ、現地で当時を思い出しながらの貴重なお話を伺うことができました。鈴木洋子先生は、ただ単に当時のことを我々に伝えようとしておられ

るのではなく、これからの子供たち、教育のあり方、人としての生き方を懇切丁寧に現地に同行いただく中で、我々にメッセージとしてお伝えいただいたのだと感じました。

その後、三人の方とお別れし鹿妻小学校に向かいました。私自身、鹿妻小学校には昨年八月、九月と二度泊めていただいた事もあり、一年も経っていないのに、どこか遠い昔の事のように当時のことを回想していました。到着後、すぐに班に分かれ瓦礫撤去作業と校舎内のトイレ掃除、中庭の清掃を行いました。私はトイレ掃除を行ったのですが、参加者の皆さんは、それぞれの持ち場を丁寧に作業されていました。これまでのような雨や雪の中の瓦礫撤去作業ではありませんでしたが、まさに復興に向けてのお手伝いをさせていただけたと感じました。一つひとつを丁寧にさせていただけれる事で、気が付けばすべての活動が自分と向き合っていることだとも気づくことができました。

午後からは、九名の部員達と「子鹿クラブ」の子供たちと野球の練習を行いました。石巻に入る前日に副代表の阿部さんにお電話を入れさせていただきました。そこ、「子供たちが楽しみに待っています」ということを言っていました。また、当日グラウンドでお会いした時には、「子供たちに、野球の楽しさを教えてやって下さい」

と言われました。野球の楽しさに答えはありません。何事においても上手く行く・いかないではなく、自分自身が精一杯取り組めることがあることが素晴らしいことであり、その先に真の楽しみがあるのではないかと思います。当日、学生たちにはあえて何も言いませんでしたが、子供たちと真剣に向き合うことが自分自身と向き合うことで一杯させていただくこと、こういったかかわりに感謝できることが大切であると学生たちと子供たちの笑顔から学ばせていただきました。千キロ以上離れている大阪と石巻。いつもながら毎回その距離を感じない人とのつながり、ご縁の深さを強く感じます。これは自分の力ではなく、いつもご支援いただける日本を美しくする会の鍵山秀三郎先生はじめ、お世話いただける方々、ご一緒できる方々がおられるからこそ自分も多くの事に気づかせていただける事が多いのだと感じます。「被災地に学ぶ会」から「復興地に学ぶ会」、まだまだ活動がどのようなつながっていくかは分かりませんが、一人ひとりの思いの火が消えない限り、一歩一歩前に進んで行くことはできると信じています。

今回は、震災当時、雄勝小学校に勤務されていました藤坂雄一先生がお忙しい中、鹿妻小学校の体育館で、三月十一日に雄勝町から石巻まで救援

を求めて三人の同僚の先生と三十キロ歩いて石巻に向かった体験談、卒業生からのお手紙には感激しました。人は辛い体験から強くなるのだと改めて学ばせていただきました。そして藤坂先生の勇氣、責任感ある行動が多くの方々「生きる力」になったのだということを感じました。今回も、新たな出会い、ご縁を深める貴重な体験をさせていただきますました。これを単なる体験で終るのではなく、これからも伝え続けていかなければならないと強く感じましたし、今後も石巻で今も暮らしでおられる方々の思いの少しでもお役に立てればと思います。一年以上が経ちましたが、決して風化させることなく、我々が足を運び続け、できごと支援をさせていただけることが復興だけではなく、将来の日本の教育にも必ず活かされる事につながると思います。

また、今回は班に分かれ、参加者がそれぞれの持ち場で活動をさせていただきました。帰阪後、カメラマンの渡辺翔一さんからの写真を拝見し、私が知らないところで、参加者の皆さん一人ひとりが素晴らしい活動をされていたことに触れることができました。渡辺さんのお写真には、いつもながらすごい力があります。すごいエネルギーを感じます。そんな写真の中に、鹿妻町の集会所での小さな瓦礫撤去をされている方々の写真がありました。皆さん、地面に身を低くして這いつ

くばって作業をされている姿が写っておりました。その作業の写真を見て、作業場所は違いますが、校舎内で行っていたトイレ掃除の姿と同じだと感じました。そのお姿から「当たり前のことと誰よりも徹底して行う」という強い思いを感じました。場所が違っても、活動内容が違っても、まさに「心ひとつ」だと今回の活動で感じる事が出来ました。これまで一緒に参加した人、初めて一緒に参加した人、まったく縁が無かった人、そんな中でも、気が付けば自然に「チーム」になっているのがこの会ではないかと思えます。毎回、一人ひとりの思いが線となつてつながっているのを強く感じる事ができます。距離ではなく、回数ではなく、年齢ではなく、性別ではなく、一人ひとりの思いがつながるとそんなことは関係ないと改めて感じます。まさに人と人、心と心のキャッチボールではないかと今回、更に強く感じました。そこには変な欲も無く、損得もなく、あるのは素直な心、前向きな思いだと改めて学ばせていただきました。

最後になりましたが、我々の活動にご理解、ご協力いただいております日本を美しくする会の皆様、今回もお忙しい中、道の駅に足を運んでいただきました浅野仁美さん、往復二十六時間以上バスを運転いただいたいき活動にご協力いただいた神姫バスのドライバーのお二人に心より感謝申

し上げます。そして、今回の活動、ご縁が、今後の新たな一歩になると信じております。ありがとうございました。

★★大阪府30代 男性★★

日常をどのように生きていくかが大切。被災された方々が幾度となく言われる言葉でした。

今回は門脇小学校元校長の鈴木先生に小学校内や日和山への避難経路などを実際に案内して頂きました。「常日頃からの授業や避難訓練での規律が大切になります。」同じ小学校教員として考えさせられるお言葉でした。教師としての責任を感じさせて頂きました。また、震災当時は雄勝小学校で勤務されていた藤坂先生にお話をいただく中でも「避難訓練、防災について、90点はないです。0点か100点かです。」と言われたことにはっと気づかせて頂きました。今まで自分なんて平和ボケをしていたんだということと命について考えきれていない自分に出会いました。子どもたちのためと言いつつも通りの流れに任せていました。避難訓練を大切にすることは子どもたちの命を守ることで、かけがえないものだと思わせて頂きました。お二人の先生が言われることは、被災したからとかしていい

とかではなく、普段の生活が結局は大切になってくるということでした。普段の生活を丁寧に通ぐこと、仕事をすること、感謝すること、当たり前前の日常を丁寧に生きる大切さを気づかせて頂きました。

今回作業をさせて頂いたのは午前中に鹿妻小学校内のトイレ掃除です。一年前に宮城掃除に学ぶ会の方々が掃除されたのがわかるほど綺麗でした。さすが掃除の会というところを見せて頂きました。その中でも丁寧に持ち場を掃除させて頂きました。一緒に取り組ませて頂いた宮崎先生の姿勢に学びを頂きました。トイレの窓サッシの溝を丁寧にとられていました。見ようとしなければ見えないトコロ。実はそこが一番大切なかもしれません。人生においても。そう気づかせて頂いたトイレ掃除でした。ありがとうございます。午後には、プールサイドの草引きをさせて頂きました。限りないほどある草に、今日は無理なのかもしれないと感じました。しかしながら、復興地に学ぶ会に参加されている方は意識が高いです。時間通りに作業が終了しました。まさに圧巻です。そして、鍵山相談役が言われる「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」まさにその言葉がピッタリでした。ありがとうございます。

最後になりましたが、今回も日本を美しくする会の方々、掃除に学ぶ会の方々、心ある多くの方

に支えられ敷いて頂いたレールの上を歩かせて頂きました。その中で、お食事の用意や掃除用具の準備など裏で私たちが取り組みやすいように動いてくださる方がいます。感謝です。

また、今回も多く頂いてばかりでした。ありがとうございます。この頂いたものを少しでも自分の担任する子どもたちや職場に持ち帰りお伝えさせて頂きたいです。日常を丁寧に、そして少しでも良くなるように変えていきたいです。

★★大阪府60代 男性★★

今回も「被災地から学ぶ」ことが多くあった。今振り返って、その学びの密度の濃さにやや押され、自分の現実(中学校での仕事)とのギャップに戸惑いを感じている。しかし、この戸惑いは今の自分にとっては貴重なものであるという感触はしている。だから、徐々に学びの密度の濃さを自分の日常生活の中で薄めていきながら消化しさらに実のなる物へと昇華させたいと願っている。まず、津波に襲われ崩壊した門脇小学校の光景を目の前にして、ここで起きた惨劇を想像し、絶句し、胸が痛み目に涙が自然と浮かんた。どれほどの恐怖を味わったか。ついで、当時の校長であった鈴木洋子先生より、無残な校舎の案内から避難経路の説明を受けながら、先生の実に的確な指示と行動が子ども達を救ったかを知り、普段の訓練のいかに大切かを痛感した。曰く「本番に訓

練以上の結果はでない」と。校内放送は使えないこと。避難時には生徒名簿を確認のために持つて出ることなど体験者でなければいけない教へであつた。

次に、当時、雄勝小学校の六年生の担任であつた藤坂雄一先生の「日常をとり戻すということ」のお話では、被災後の学校の課題の取り組み一特に子どもたちの心のケアについて心を配られている姿に、我々の支援の及ばない現状を考えさせられるものがあつた。「・道路や建物が修復されるように、心の傷も簡単に癒える分けではない」と。そして、「生きぬく力」「つながる力」を育てることをめざしているという。人の心の復活はまだまだ遠い道のりのように思った。

行程の最後にいつも訪れる大川小学校。だれもが無言でただ慰霊の祭壇に線香を手向け手を合わせる。あの時から、津波の被災を受けた校舎は、惨状をむき出しにしたまま何も語らず静寂の中で冷たく位置している。そんな中で、「カラ、カラ、カラ」と数個の風車が川面からの風に勢いよく回り、その音だけが不明者を探索するために掘られたであろう川岸までのあたり一面に響く。未だ、四名の児童が見つかっていないという。犠牲となった子ども達が手に持つ風車の音なのか。ここでも涙がこみ上げてくる。ただ合掌。

以上のような復興地での学びや感想とは別に、

宮崎先生が、一緒に参加されたみなさんの思いが自然と一つになり「バスがそのままチームになった」とおっしゃったのを実感した三日間だった。参加された方のそれぞれのご縁で、学ばせて頂きまた、いろいろなおいしいものをちようだいしたことも、この会の有難いことと感謝しています。何より、大谷先生はじめ準備等携わられた方々に心より感謝申し上げます。バスの運転手さんまで引きつける「大谷教」は本物だと確信します。最後に、「生き方を学ぶことは、特別なことをすることではなく、日常生活をしつかり生きることでもある」というような旨を大谷先生が述べられたことを、噛みしめ実行したいと思いました。ありがとうございました。大感謝！

★★兵庫県60代 男性★★

五月二十五日～二十七日、五回目の石巻支援活動に参加させていただいた。被災地は以前のように入屋内に瓦礫が詰まったままというのを見かけなくなつたが更地が広がりそれからの進展が望めないような状況である。今回過度の門脇小学校では遠くから校舎を見るのではなく前校長先生鈴木先生の特別の計らいで被害の様子をそのまま残す教室を目の当たりにすることができた一瞬時間が3・11に戻つたような身体の凍りつく

ような思いがした。そのような悲惨な状況の中門脇小学校では一人の犠牲者も出さずに済んだのは普段の厳しい訓練のたまものと聞いた。地震直後子供たちが校庭に整列し日和山に非難するそのあとに市民のかたがたが続き難を逃れて後日お札をいわれたとのことである。このように速やかな非難のできた裏には、日頃の徹底した訓練が欠かせないとのこと。此の事は一小学校の避難訓練にとどまるのではなく、我々実社会においても充分当てはまることである。いつも思うことであるが自分の会社の倉庫を見ればどの程度指導教育が行き届いているか一目瞭然である。それがすなわちその会社の実力であり何かの大きな障害に行きあたったときしつかりと踏ん張れるか、あえなく崩れ去ってしまうか、普段の心構えと行動力が試される時である。

今回は鹿妻小学校で本部の安倍様と仕事をともにすることができた。校庭の除草作業をされたが我々は皆手袋を付けての作業であるが、安倍様はお勧めしても手袋は付けられなかった。又陽射しも少しあつたので日陰にとお誘いしたがこれも断られ独り黙々と草を刈られそれをゴミとしてゴミ袋に入れるのではなく掘り返した花壇の埋め込みその上から土をかけられた。こうすることにより花壇の保水力も高まり、堆肥にもなりいっつちようにせきになる。鍵山相談役の仕事を目の

当たりに見る想いで私にとつては大きな学びの時でもありました。今回も大谷先生はじめお世話いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

★★大阪府40代 女性★★

初めて参加させていただきました。三月末頃にキム先生がFacebookで、「被災地に学ぶ会」大阪のことを載せられていました。私は、その案内を見るのが遅く、参加できなかったことが残念でなりませんでした。現地に行くことはできなくても大阪に居ながらお役に立てるなら：そんな気持ちでいました。

五月中旬、西村先生から「第十二回復興地に学ぶ会」のメールを頂きました。はじめは、石巻まで行けるか？でも、今、行かないと後悔するかも？という心の声と葛藤すること約一時間。夫に、行ってもいい？と一応了解を得て、大谷先生に参加のメールをしました。今まで、テレビでしか知らなかった被災地ですが、一年以上経つても瓦礫が綺麗に片付けられているくらいで、復興にはまだまだ時間がかかるといふこと、そして、それ以上に心の復興は難しいと感じました。

雄勝小学校の藤坂先生の話で、女の子が給食の時間に妹の写真を置いて食べるんです。なぜ？と

聞くと、妹も食べたいだろうからと答えます。妹の胸に木が刺さって亡くなっているのを発見したのは、その子です。寒く、空腹状態にいる避難所で、「百虎舞竜の曲「ロード」を歌った時、「何でもないような事が幸せだったと思う」という歌詞に一人の児童が「本当にそうだよね」と言ったことなどを話されました。大人でも、ひどい光景を目の当たりにすると、津波の影響があった所には行けないと言われているくらいですから、子供の心の傷はさらに大きいだろうと思いました。

さて、今回の清掃活動ですが、小さな瓦礫処理と、プールサイドの草抜きです。去年はプールに入ることができなかつたためか、草が伸び放題。皆一心不乱に草抜きです。あと残り三十分、予定通りに三時に終わるよの言葉通り、時間ピッタリに終わることができました。やり切ったという満足感を得ることができました。子供達の歓声も聞こえてきそうです。

見学で立ち寄ったのが、門脇小学校と、大川小学校です。門脇小学校は、周りは住宅街だったようですが、その面影はなく更地になり、学校だけがポツンと立っていました。前校長の鈴木先生の説明を受けながら校舎を見学しましたが、そこだけ時間が止まったままの状態でした。唯一校庭の隅にひまわりが植わっているのを見て、ホッとすることができました。

最後に立ち寄った大川小学校は、門脇小学校のように自治体が整地したではありません。まだ行方不明のわが子を探すために、親御さんがパワーショベルの免許まで取り、捜された跡なんだと聞きました。重苦しい気持ちのままバスから降りました。祭壇があり、ご冥福を祈りました。すぐにそばに山がありますが、道はなく、急な山です。とても低学年が登れるような所ではありません。先生もどこに逃げようかと迷われたそうです。残念ながら沢山の人が亡くなってしまいました。先生は最善をつくされたんだと思えました。今回参加させていただき、忘れられない貴重な体験をすることができました。「日本を美しくする会」の皆様、安全に迅速に私たちを運んでくださったドライバーのお二人、大谷先生、参加者の皆様、どうもありがとうございました。

#### ★★大阪府20代 女性★★

今回の第十二回復興支援活動に参加させて頂き、ありがとうございました。

私は昨年の九月に初めて参加させてもらい、今回が二回目でした。前回の時にも感じた、参加された方々の熱い思いに改めて感動しました。

一番印象に残っていることは、鹿妻小学校でのトイレ掃除です。掃除のやり方を小畑さんが一か

ら丁寧に教えてくださいました。道具や手順は色々ありましたが、やり終わってみるととてもシンプルなことだと感じました。「ものを大切にすること」が様々な事の基本だと改めて感じました。家事や仕事の中で面倒臭がってしまう事を、少しずつやっつけていこうと思います。私は、震災から一年が経った石巻を見て、何を感じるのだろうかという事を知りたくて参加させてもらいました。阪神淡路大震災から一年経った時、私は小学校の卒業式を控え、小さな寂しさと中学校へのドキドキを感じていました。神戸の町は、全てが元通りにはなっていないと思いましたが、そこには普通の日常があったのだと思います。鹿妻小学校の校庭で、サッカーや野球をしている子供達、それを応援している家族の人たちを見て、石巻にも少しづつ普通が戻ってきているように感じました。あの日を忘れてはいけないけれど、普通の生活が出来ることは幸せなことなのだと感じ、今の自分にある普通がとても愛おしく感じました。

そして十七年経った今、私が阪神淡路大震災について考えるのは一月十七日だけかもしれないと気付きました。それは、私にとっては良い事です。心が元に戻って、成長していることを感じます。でもあの日の事を忘れることは出来ないし、十七年前に私を助けてくれた人たちを絶対に忘

れることはありません。今回訪れた門脇小学校と大川小学校には、まだ一年前から時間が止っているように感じました。ここに普通が戻ってくるのは、まだまだ時間がかかると思いますが、でもいつか戻ってくると思います。それには時間か、人か、また色々なものが動いて戻していくのだと思います。私は少しでもその一部になれたらいいなと思いました。

鈴木洋子先生と藤坂先生の貴重なお話を聞くことができ、今回もたくさん勉強させて頂きました。前回より、大きいですが自分の生き方を考えることが出来たと思います。ありがとうございます。ありがとうございました。

★★奈良県30代 女性★★  
今回で十二回目の「学ぶ会」。このように継続して計画して下さり、それを支えて下さる方々に改めて感謝の気持ちがあふれてきます。もうすぐ六月。私が初めてこの会に参加させて頂いたのが昨年七月。どうにかして向かえたらと思いつつ、混乱されている場に私が行き何ができるのか、その上運転もできない私には向かえないという言いわけばかりがならんでしました。そんなときでした「学ぶ会」への参加を教えてくださいました。その方がつないでくださったおかげで

今があります。本当に感謝です。

今回も人とのつながりが自分を大きく支えてくれていることを感じました。

石巻に入り、偶然が重なり石巻駅で浅野さんと出会いました。ほんの一瞬でしたがものすごく嬉しくてたまらなくなりました。大木先生が、佐藤さんがお昼休憩のときに来てくれるよ。峠先生が、石森さんが朝、よってくださるって…。山崎先生が、千々松さんが上品の郷に来て下さるかもしれない…。ということを教えて下さりものすごく心が躍り、なんとも言えない嬉しさをいっぱいにしました。佐藤さんは、まだ鹿妻小学校が避難所だったとき、突然来た私たちを快く迎えて下さいました。たった一日であっても、宿泊の時も本当に本当に親切にして下さり支給されたものを私たちにふるまって下さいました。こんな状況の中であつても人はこれほど優しくなれるのだろうか、そう思う出会いでした。雪交じりの雨の中、活動を終えふるえながら藤木さんと一緒に初めて石森さんのお店でご馳走になり心も体もぽかぽかしたことを思い出しました。千々松さんの鯨の工芸品につまった受け継がれていく技とあたたかさ…。そしてたった一つのこれは全て「学ぶ会」での出会いです。人がこれほどまであたたかく、優しくその方々と出会う中で、その方々の生き方にふれたことやつながりが自分をささえてくれ

ています。

出発からそんな気持ちで向かわせていただけ、参加させていただけに感謝でいっぱいでした。

門脇小学校では校長先生のお話を聴かせて頂き、あの日の自分のクラスの子たちの顔を思い浮かべていました。卒業式のお話を聴くとあの日のあの子たちと重なり胸が痛くなりました。お話の後、校舎を特別に見せていただきました。ふんわり臭いがしました。暑い夏、雄勝町でお掃除させて頂いたあの日の臭いとともにおうちの

方々が生きてきた証を思い出しました。小学校にはあの日のままの書類ファイル、子どもたちの下靴がありました…。涙をこらえることができずでした。どんな思いで…。想像なんてできません。でもなく…。だからこそ余計胸が痛くなったのだと思います。お話を聞かせて下さり、案内をして下さった校長先生の言葉の奥にある思いを受け取れ、繋がっていけるような人になりたいと強く思いました。

鹿妻小学校に着き、午前中はトイレのお掃除でした。小畑さんがいつも「始めての人？」と気にかけて下さり、わからなくても安心してお掃除ができました。勿論、私はまだまだ気持ちが弱く、躊躇することが多く恥ずかしくなりました。それでもなんとか心をむけようと思えたのは皆さん

が磨いておられる背中があったらからでした。自分が磨く音と皆さんが磨く音が違い、甘さを感じながらも自分では必死なつもりでした。でも他の人が磨いたトイレの水気を拭き取ろうと見た時、明らかに光の具合が違いました。本当にすごかったです。なんだろう、この違いは…そう強く思いました。心の向け方の違いなんだろうなあとと思えました。これが石巻の方々の心に響いたトイレ掃除なんだと改めて感じました。

お昼からはプールの草引きでした。プールから見える運動場の遊具を見ながら秋に草引きをしたことを思い出しました。草を引いていると鹿妻小学校の女の子たちが来て手伝ってくれました。お昼休憩のときにはジュースの差し入れまで…。あの子たちは元気かなあ…そう思いながら女の子たちが使うプールが綺麗になることが嬉しくてたまりませんでした。でも、お昼の活動後の藤坂先生のお話を聴きながら、プールが綺麗になって喜んでくれた私の軽い気持ちに気づき何とも言えない気持ちになりました。水泳指導が行われるかどうかは目の前の子どもたちの心が大丈夫かどうか…。津波のことを思い出してしまいう子がいたら…。ただ、綺麗になつて子どもたちの歓声が聞こえるかどうかは…。藤坂先生もどんなもいど話して下さったか…。思い出したくないことだつてあるはずなのに…それでも話してくださる…。

そこまでして伝えて下さる思いをしつかりと感じ取りたいと思いつながら聴いていました。避難所におられた方との再会も嬉しいだけではなく…現状に心が締め付けられました。学ぶ会に参加させてもらい、活動の内容が参加するたびに変わっていき、目に見える部分では少しずつ復興しているのかなと感じていました。でも、綺麗になっていくということはそのこにあつたものがなくなるということ、なくなると言うことは人の集まりも少なくなるということ…。「今は家からあんまりでない。」と仰られた言葉が胸に突き刺さりました。私はこのまま関西に戻り、戻れば以前と変わらない生活があつて…。人とのつながりで自分は支えてもらっているけれど、自分はどうなんだろうろうかと考えました。何とも言えない気持ちの中で今回は活動を終えました。けれど、バスのシェアでつながつてくださるか方の言葉を聴き気持ちを救ってもらえました。本当に感謝です。私はいつも引いて下さったレールに乗って行かせて頂くだけです。帰りのバスの中で今回の計画を練つておられる方々の背中を見ながら本当にすごいなあと思えました。そしてそれができるのは、この会を支えて下さる方々がいらつしやるからだだと大谷先生はいつもおっしゃいます。本当に有り難いなあと思います。今回も感謝でいっぱいです。本当にありがとうございます

★★奈良県20代 男性★★  
まず日本を美しくする会の皆様、感謝申し上げます。すべてがひかれたレールの上に私たちは乗っからせていただき、本当に充実した活動をさせていただきました。ここまで築かれたことの偉大さを感じました。

出発当日、子どもたちに「いってらっしゃい」「先生、おれも行きたいけど行けへんからその分まで頑張つて」など、目の前の子どもたちの気持ちも背負つて出発しました。子どもたちの口から「私も、僕も行つてみたい」という言葉が出たことに、何かうれしい気持ちになりました。石巻では今まで以上に（生の声）を聞き、日々日常の大切さを考えさせられる活動になりました。

石巻、門脇小学校では、前校長の鈴木先生に当時の避難の様子も含め話をいただきました。日々の規律や規範がどれだけ大切なことか、私たち教師の責任の重さも痛感させられました。これからの自分自身の言動や行動に今以上に責任を持つていこうと決意した瞬間でした。震災当時の避難経路やそのときの様子、その中でも子どもたちの行動が強く心に残りました。高学年が低学年のお世話をしていたこと、他人のことなど考えることもできないであろう状況なはずなのに、下の



ことの面倒を見ている。いかに普段からの行動が大切であるか、大変な状況のときに普段の行動がでるといふことも伝わってきました。

その後、鹿妻小学校では植木のツツジを取り除く活動でした。簡単にはいかなない活動でひとつ取り除くのにかなりの時間がかかりました。たぶん業者に頼めば、簡単に終わる活動だけど、それを私たちがさせていただくということは、私たちがする大きな意味があるのだと考えました。どれだけ心を寄せて、気持ちを持っていいねいにするこ  
とができるのか。ひとつひとついいねいにさせて  
いただきました。校庭では子どもたちが元気にサ  
ツカーする姿を見て、心が和みました。その横で  
活動できることに幸せを感じました。わたしたち  
のために食事を用意してくださった方、牡鹿のれ  
ん街からは、イカの差し入れをわざわざ持ってきて  
くださいました。私たちがどれだけ支えられ、  
活動することができているか、感謝申し上げます。  
雄勝で教員をされていた先生からも当時の話を  
していただき、強い思いが伝わりました。思い出  
したくもないであろう過去を私たちのために話  
していただき、私たちがこれからのように過ご  
していくとよいのかを示してくれたような気が  
します。

今回一番強く感じたことは、「日々の日常をど  
のように過ごすか」ということです。日常でき

ないことは、いざというときにできない。日々の  
取り組み・行動が自分の、また身の回りのこれか  
らにつながるということを考えさせられ、気づく  
ことができました。ごくあたりまえのことが、あ  
たりまえにできるように、簡単ではないけど実践  
していきたいと思いました。自分の持ち場をいか  
に責任を持って取り組むことができるか。自分に  
今できること、自分にしかできないことをしてい  
きたいと思います。このような経験をさせていた  
だいているのは、身の回りの支えてくれている方、  
また日本を美しくする会の皆様、ご一緒させてい  
ただいた方、すべての方々のおかげです。心より  
感謝申し上げます。

★★大阪府40代 男性★★

今回も私の都合に合わせて参加を希望したと  
ころ、快く参加を認めていただいた大谷先生はじ  
め、参加者の皆様に心より感謝申し上げます。あ  
りがとうございました。また、神姫バスの運転手  
の新西さん、井上さん、本当にありがとうございます  
ました。お二人の心意気、行動には本当に頭が下  
がります。出発から到着するまでどれだけ神経  
を使われるか。現地で作業をする私たちよりもは  
るかにお疲れのことと思います。それでも、私た  
ちに対してねぎらいや感謝のお気持ちを現して

くれる。なんていう方たちなのかと業種は違えど、  
自分もお二人のようなプロフェッショナルにな  
りたいと実感しました。今回も日本を美しくする  
会、大阪便教会、そして、神姫バスさん、今回参  
加できなかった方たち等、多くの方たちの支えが  
背景にあり、その支えというレールの上にある客  
車にいつも自分は乗っかっているだけです。機関  
車役の大谷先生や宮崎先生、神姫バスの運転手さ  
んの後ろでのんびり乗っている自分がいます。本  
当に多くの方に支えられていることに、ただただ  
感謝の気持ちでいっぱいです。そして、今回も快  
く送り出してくれた職場のみなさんや家族にも  
心から感謝しています。特に家内には、自分の時  
間を削ってまでも「行っておいで」と気持ちよく  
送り出してくれ、帰ってきたら「お帰り！」と明  
るく言ってくれると、本当に気持ちが楽になりな  
ります。子どもたちも「お帰り、頑張った？」と  
言ってくれると疲れもすつとなくなります。家族  
の支えと理解が自分にとってどれだけ大きいも  
のか、改めて実感させられました。本当にありが  
たいと思っています。

さて、今回もまた新たな出会いを通して、本当  
にいい縁をいただきました。これも本当に感謝  
の気持ちでいっぱいです。特に、現地で、お忙し  
い中、私たちのために時間を割いてくださり、当  
時の切羽詰った状況、思いを伝えていただいた、

鈴木先生、藤坂先生、佐藤さん、浅野さん。本当にありがとうございます。また、わざわざ、私たちのために差し入れを入れていただいた現地での掃除の会の方、牡鹿の方、掃除を一緒にしてくださいました掃除の会の方、休みを返上して学校を開けてくださいました校長先生方、本当にありがとうございます。現地で出会え、現地で先生方の生の声を聞いたことが何よりもよかったですと思います。一人ひとりの立場でのお話は、一言一言に思いが乗って、ズシリズシリと自分の心の中に入ってきました。改めて、本気に正直に生きてはる方たちだなんて思いました。

バスの中においても、教員の方、一般の方、学生の方等、職業、年齢、それぞれ違えど、自分の思いを自分のことばで話され、現地に寄せる思いやそこから謙虚に学ばせていただくという思いを語られ、自分も改めて自分の生き方、考え方を見つめなおす機会となりました。本当にありがとうございます。

今回は、校舎周りの枯れ木の植え替え作業をさせていただきました。なかなか、コツのいる作業ではありましたが、みなさんと力を合わせ、徐々に連帯感も生みながらの作業となっていきました。今回の中の作業においても、「一つひとつ丁寧に」ということを心がけながら作業をさせていただきました。いつもこのときはやさしくなれる

自分がいることに気づきました。新たな発見でした。力と根気のいる作業でも、丁寧にといいことを意識づけていくことで気持ちが晴れやかになります。もちろんそれを一人でやることで生まれることではなく、みんなで協力してやるからこそ晴れやかになるんでしょうね。そう思います。そのときの「お願いします。」「ありがとうございます。」という声かけも気持ちいいもんです。今回も多くの出会いの中で、多くのことを学ばせていただきました。その中で復興に向けて、そっとしておいてほしいという気持ち、普通の生活に戻っていききたいという前向きな気持ちと逆に避難所等から地域の生活に戻ったことで、今までとれていたコミュニケーションや交通の足がなくなり、自宅にこもりがちになって、気持ちも身体もしんどくなっていくといった、高齢者の孤立化という問題も出てきました。また、浅野さんがおっしゃっていましたが、瓦礫の撤去、焼却等の問題。瓦礫が撤去されることで、復興のスピードが違うというお言葉をいただきました。なかなか、他の自治体が入れ入れを表明したとしても実態としては一向に進んでいないという問題があります。本当にどうして行けばいいのか、今すぐに答えが出なかったことに申し訳ない気持ちになりました。

自分の生き方、自分の生活の改善について見つ

めなおし、どう実践していくか。できることからしかできないんですが、すぐに現地の問題解決に繋がらないことなのかもしれません、心は常に現地に寄せつづけていくことと、まわりにどう今の状況や課題があるのかといったことを伝え、広めていくかということも継続してやっていきたいと思います。そして、神姫バスの運転手さんのようにプロとして業務を全うし、かつ、相手のことを思いやる、感謝する気持ちを忘れず、日常生活をまじめに、本気で生きていけるよう頑張っています。みなさん、本当にありがとうございます。

★大阪府40代 男性★  
はじめに

今回も参加させていただきました。本当にありがとうございます。石巻に行くまで、公私ともどもで、いつたいどれだけの皆さんの方々のお世話になったでしょうか。自分にとって「お膳立て」をして下さった方々がどれだけおられたのか、あらためて書き出してみることにしました。

一、阿部様、千種様をはじめとする「日本を美しくする会」の方々。

石巻市鹿妻小学校とのご縁を紡いで下さり、そして私たちの活動にご理解を下さって会の方か

ら諸費用を出して下さっています。ただただ感謝するしかありません。

二、「日本を美しくする会」に支援金を下さった方々。

活動の最大の土台となる諸費用を出して下さい。活動の最大のお子さんもおられたに違いありません。この方々に報いる活動をしてこなければ、私たちが現地に行かせていただく資格はありません。

三、大谷育弘先生をはじめ「学ぶ会」に今回参加された同志の方々。

毎回、被災地のために何ができるのか、何を学ぶのか、どのように生きていくのか、といった命題について、心の奥深いところに波紋を投げかけて下さるプログラムの数々。今回はとくに素晴らしいプログラムで、門脇小学校校長(当時)の鈴木洋子先生や雄勝小学校教諭(当時)の藤坂雄一先生のお話を拝聴できました。毎回感動です。このようなプログラムを組み立てるまでに、大谷先生はお電話、お手紙等で何往復の連絡をなされたのでしょうか。ボランティア保険のお手配、レジメ製作・印刷・会場までの運搬、その他もろもろの雑事もまた毎回大変に違いありません。

それから、大谷先生の熱い思いに呼応して、往復の車中で熱く語る同志のみなさま。その言葉に奮起し、勇気づけられ、気づかされ、学ばされ、

ひいては人生のお手本にさせていただいております。同志のみなさまの存在ももちろん、必要不可欠です。

四、ご縁をいただいた現地の方々。

最初に脳裏に浮かぶのは鹿妻小学校の浅野様です。最大で二五〇〇名余の被災者を体育館にて一手にお世話されていたその生のバイタリティには圧巻されっ放しです。現在も「学ぶ会」のある時ごとに、わざわざ私たちに会いに来て下さいます。牡鹿ボランティアセンターの遠藤様をはじめ、現地スタッフのみなさまにも、お世話になりました。全国からの日々のボランティアを束ねるのに相当のご苦労をなされているなか、私たちに最もふさわしいであろうボランティア活動をあてがって下さったことに感謝いたします。浅野さんや遠藤さんなしで「学ぶ会」の活動はうまく機能しなかつたはずで。

五、過酷な行程をものともせず運行して下さるバス運転手の方々。

身体的にも最も追いこまれる方々です。私たちの活動の細部までそのニュアンスをご理解下さり、安全かつ最速の手際よさで目的地まで私たちを運んで下さる運転手の方々。雨の時にはどろ避けのマットをステップに敷いて下さったり、人知れず車内の通路を拭き掃除して下さっていたり、突然ご無理申し上げても、大きな車体をものとも

せずその目的地まで確実に運んで下さるご厚意には深く感謝申し上げます。今回は私たち全員にアイスクリームまで差し入れして下さいました。その熱いお気持ちに感謝申し上げます。

六、今回はご一緒できなくても心を寄せて下さる方々。

お仕事等で「学ぶ会」に参加できなかった方々がたくさんおられます。なかには、参加したいにもかかわらずお席を譲って下さった方々もおられます。そのような方々の思いもバスに乗せて、今回活動をして参りました。参加できなかった方々に顔を向けても恥ずかしくないような活動を、自分ではできたのだろうか。今回活動してきたことを反芻しながら、自問しております。

七、内助の功。「学ぶ会」に参加できるに至ったご縁。

毎回いやな顔ひとつせず家に送り出してくれる妻や子。人生の分岐点ごとに道しるべとなつて、「学ぶ会」とのご縁を私と繋いで下さったすべての方々。また、私を生んで、育てて下さった両親やご先祖様。そのうち、どの存在がなくても私は今ここにおりません。

どれだけたくさんの方々のお世話になり、今ここに自分が存在しているのか。ここで挙げたよりもはるかにたくさんの方々のご好意により、自分は生かされております。まだまだ愚鈍な私が、そ

の存在に気づいていない方々も大勢おられるに  
違いありません。改めまして、この場をお借り  
して感謝申し上げます。そして、すべての方々に  
報いるためにも、ここに「感想文」を提出させて  
いただきたいと思います。

## 第十二回の感想

往路車中でも申し上げたことですが、これまで  
十一回分の「学ぶ会」とは違い、今回の活動は「学  
ぶ会」の真価が問われるものであったように思い  
ます。なぜなら、これまでなら目の前に「撤去」  
したり「整理」したりする対象（ガレキ・我歴）  
があり、活動後には必ず目に見える「成果」があ  
ったのですが、「ガレキ撤去」が一段落した現在、  
今回の活動には「成果」がなかったからです。

活動内容は、鹿妻小学校にお邪魔して、津波の  
塩害で枯れて久しいつつじの植え込みを除去し  
たり、プールサイドのタイルのすき間から一面に  
膝丈まで伸び放題の雑草を除去したり、トイレ掃  
除をしたり、といったことだったのですが、たと  
えそれらが除去されても、現地の方々に何の意味  
をなすのか、そういう点で目に見える「成果」は  
ほとんどありません。

確かに、植え込みの土中深くまでスコップで掘  
っても、強靱に張った根っこごと植木を除去する  
のは容易ではありませんでした。プールサイドの  
雑草も一面に茂っていて、そのすべてを除去する

には途方もない時間と労力がかかりそうに思え  
ました。しかし、それらを除去しきったとしても、  
現地の人々にとつてそれが何の意味を成すのか。  
それこそ、現地の専門業者に依頼すれば済む話で  
はないのか―そんな自問が浮かんでくるなか、自  
分たちにできることは、それらの活動を通して背  
中で語ることにしかないと感じました。黙って活動  
し、それを通じて思いを伝えるしかないと思いま  
した。

朝十時に活動ははじまりました。はじめのうち  
は、植え込みをできるだけ早く除去することばか  
りに想念がとらわれておりました。が、途中で手  
を止めました。そして、自分の脳裏にそこはかと  
浮かんでくる思いに耳を傾けることにしました。  
「鹿妻小学校は一年前の今ごろ、こんな状況じゃ  
なかったよな」

あのころ、体育館にはまだまだ多くの避難者の  
方がおられ、仮設トイレが何機も据えつけられ、  
通りがかる人々の表情に明るさのかけらもあり  
ませんでした。通りがかる人とは支援物資を搬入  
して下さる方や避難者、ボランティアばかりで、  
晩の九時には一斉消灯でした。異臭もしておりま  
したし、ハエもたくさん飛び交っておりまし  
た。それに比べて、今は運動場で子どもの声がする。  
サッカーや野球をしている。それをサポートする  
保護者の方が日陰で涼んでおられる。職員室の窓

からも整然とした先生方のお机が見える。確実に  
学び舎の息吹が感じられる鹿妻小学校を肌で感  
じました。時間の流れが昨年とは変わり、  
のどかな時間の流れのなかで、心の底から嬉しい  
気持ちになりました。

「この植え込み一面に花が咲き乱れるといいの  
になあ」

この四月に鹿妻小学校に着任された大谷校長  
先生も、そのようになさるおつもりの方です。  
そのための第一段階として、私たちに活動依頼を  
なされたのだと分かりました。かつて津波が押し  
寄せ、ごった返した「避難所」が花の香あふれる  
学び舎になれば、何と素敵なことでしょう！その  
日が少しでも早く訪れるように、という思いが活  
力源となり、午前中の活動はあつという間に終了  
いたしました。

プールの雑草を除去し終わった後に、大谷校長先  
生が仰いました―「これで今夏、このプールサイ  
ドに子どもたちの歓声が聞こえることでしょ  
う！」。このお言葉を耳にして、目頭が熱くなっ  
てしまいました。昨年の今頃はプール授業どころ  
ではありませんでした。少しずつ、少しずつです  
が、鹿妻小学校は息を吹き返してきております。  
その場に居合わせたこと、そのお手伝いを少しだ  
けでもさせていただけたことに、最幸の喜びを感  
じました。もしかしたら、これが「思いを寄せる」

ということなのかも知れない。僭越かもしれませんが、間違っていてもいいのかもしれませんが、私はそのような感じました。

今回の活動は、早朝から門脇小学校元校長の鈴木先生にご足労いただき、震災当時のままの教室や職員室を見せていただくとともに、当時の避難経路と一緒にたどらせていただきました。経路は結構な坂道でした。低学年の子どもたちが雪降る寒さのなか、表情まで凍りつかせて、いったいどのような心持ちでこの坂を登ったのでしょうか。さらに、安全のために、避難を続けた末に、裏山の日和山公園にたどり着いたそうです。公園からは旧北上川や太平洋が見えました。黒くて忌まわしいじゅうたんのような津波が町全体を覆ってしまった、その状況を子どもたちは生の目で見て、どのように感じたのでしょうか。どれだけ「ガレキ撤去」が一段落しても、この地域から大震災と津波のトラウマがなくなることはないように思います。

午前午後の活動の後、雄勝小学校教諭(当時)の藤坂先生から体験談を拝聴いたしました。藤坂先生は、石巻市内と雄勝を結ぶ新北上大橋が寸断されたため、徒歩とヒッチハイクで数十キロの道のりを越え、雄勝の惨状をラジオ石巻にお伝えされた方です。この義挙がなければ、雄勝地区の人々は餓死していたに違いありません。それにし

ても、お話の内容にも圧倒されました。大人も子どもも関係なく、いまだに相当心の傷を持っておられることが分かりました。人前では笑顔で強く打ち振る舞う子どもたちが、心の奥の方で決して忘れることのない、しがみついて離れない、離れたくても離れられない記憶。その記憶のために人知れず夜中に泣いておられるに違いありません。大人も同じでしょう。私たちは何かをしてあげたいです。が、いまだに何をしてあげたらよいのか、分かりません。答えがでない苦しみ。しかし、それゆえに、これからも何らかの活動を続けていきたいと強く望みます。何よりも、「今ここ」を大切に精一杯生きてまいりたいと思います。

お世話になったすべての方々、とくに今回同行できなかった同志の方々、今回も参加させていただき、ありがとうございました。

★★兵庫県40代 男性★★

今回、昨年十一月に続いて、二回目の参加をさせていただきました。前回は、同僚の先生と一緒にでしたが、今回は一人で参加させていただきました。尼崎駅で待っていると、金先生、土作先生が来られました。特に土作先生とは、バスでお隣の席に座らせていただき、行き帰りのバスの中でも色々学ばせていただきました。

出発してすぐ、大谷先生から「この会は、たくさんの方の支えによって成り立っている」というお話をいただきました。お金を出してくださいって、日本を美しくする会のみなさん、バスの運転手さん、ダンドリや準備をしてくださった大谷先生をはじめ、多くのみなさん、参加したくてもできなかったみなさん……。そういった、支えてくださっている方々の思いをしっかりと受け止めた上で参加しないといけない、そう強く思いました。

行きのバスの中での自己紹介は、前回同様とても熱いものでした。みなさん、志が高く、お話をお聞きするだけで、大きな学びをいただきました。土曜日の朝、門脇小学校に到着しました。半年前に訪れた時は、遠目にしか見る事ができませんでした。今回、当時の校長先生でいらつしやった鈴木洋子先生のご案内で、密越しに職員室や靴箱などの様子を見せていただく事ができました。職員室の中は、当時のままでした。机はひっくり返り、焼けこげのあとがあり……。また、靴箱にはまだ靴が残っていました。あの日のまま、時が止まっているように思えました。

鈴木先生のお話から、とても多くの学びをいただきました。▼「放送機器が壊れ、教師の肉声で全校生に連絡しました。そのような避難訓練をされていますか？」▼「高学年の子が、低学年の

子を、そつとブルーシートで囲んであげていました。こういうところで、たてわり班活動が活きるのです」▼「避難訓練も大事ですが、もつと大事なのは普段の授業です。普段の授業で、考える力、判断する力、話を聞くこと、並ぶことなどをきちんと身につければ、パニックにはなりません」

そして、震災当日と同じ避難経路を案内していただきました。裏山の日和山公園から見る景色は、とても美しいものでした。でも、震災当日は、ここから津波で町が壊滅していく様子が見えた事でしょう。そう思うと、足が震えました。

次に、鹿妻小学校を訪れました。私は、午前中トイレ掃除をさせていただく事になりました。ここでは、多賀城掃除に学ぶ会の小畑さんに、トイレ掃除のやり方を教えていただきました。これは、本当に衝撃的でした。道具、洗剤選びからはじまり、洗剤の出し方、姉妹方、スポンジの置き方、ふき方、水のふき取り方など、一つひとつが合理的で、徹底されていました。私が今までやってきたトイレ掃除は、「トイレ掃除のようなもの」だったと気づかされました。本当に、すばらしい経験をさせていただきました。

お昼ごはんも、差し入れをいただきました。多くの方に支えられている事を、改めて実感しました。

午後は、校庭のつつじの除去をさせていただき

ました。また、並行してプールの草抜きも行われました。津波の影響で、昨年はプール水泳が実施されなかったそうです。ただ、今年行うにしても、「水がこわい」という児童もいるようで、配慮が必要だとおっしゃっていました。

清掃後は、藤坂雄一先生のお話を、体育館でお聞きしました。藤坂先生は、震災当時、石巻市立雄勝小学校に勤めておられました。地震に遭い、避難したものの、雄勝地区そのものが陸の孤島になってしまったため、支援を求めるために30km歩かれたそうです。当日の様子や、その後の子どもたちの様子をお聞きし、まだまだ震災の爪痕はとてつもなく大きく、様々な形での、本当に細やかな支援が必要だと痛感しました。とても貴重なお話をお聞きする事ができ、感謝します。

鹿妻小を出発し、半年ぶりに大川小学校を訪れました。

半年前に訪れた時は、辺りはすっかり暗く、また雨が降っている中でした。その時にはよく見えなかった校舎の様子を改めて間近で見ると、目を失いました。バスを降り、祭壇に向かいました。胸が詰まりました。たくさんの風車の音が、とても悲しくひびいていました。手を合わせ、心からご冥福をお祈りしました。校舎の周りを歩くと、改めて津波のすさまじさを感じました。地面には、文房具やおもちゃなど、色々なものがたくさん埋

まっています。大川小学校は、海から4km離れているそうです。海から4kmも離れた地域に、校舎がなぎ倒されるような津波が訪れると、だれが想像できるでしょうか。大谷先生がバスの中で、「遺族の方の中には、バスで見に来る人たちに対して、いい思いを抱いていない方もおられる」と教えてくださいました。私は思いました。どうしたら遺族の方々に、「この人達なら、見に来てもらってよかった」と思ってもらえるのだろうか。簡単に答えが出るとは思えません。もしかしたら、答えのない問いなのかもしれません。でも、少なくとも私が、命を大切にすること、家族を、仲間を、子どもたちを大切にすること、あたりまえの日常をあたりまえと思わず、感謝の心を持って生きる事…これらを本当の意味で実現していく事が大切なのではないか…そんな思いを持ちました。

今回の「復興地に学ぶ会」では、身の回りのすべてに感謝し、大切にしていくなき方を学びました。命、時間、家族、仲間、道具…。トイレ掃除も、その一つでした。そして、大谷先生を始め、宮崎先生、金先生、土作先生…一緒に行かせていただいたみなさんのことば、行動からも、そのことを学びました。

「大切なのは日常です」…大谷先生のことばを、改めてかみしめたいと思います。そして、まず自

分に何ができるのかを考え、日々の中で、ほんの少しでも、学びを形にしていきたいです。そして、また必ず復興地を訪れたいと思います。

今回の学ぶ会も、多くの方の支えにより成り立っていました。大谷先生を始め、日本を美しくする会のみなさん、バスの運転手さん、見送りをしてくださった方々、差し入れしてくださったみなさん、現地でさまざまなサポートをしてくださったみなさん、快く行かせてくれた家族。すべてに感謝したいです。ありがとうございました

★大阪府40代 男性★

日本を美しくする会の皆様のお力添えとご援助により、今回も復興の地へ、清掃に行かさせて頂きました。深く感謝しております。ありがとうございました。近い将来、教師として教壇に立つ日に、子どもたちへの教育を通して、この御恩を社会に還させていただきたいと思っております。私は、教師を目指して、通信制の大学に通う大学生です。

前回、この会で学ばせていただいたのは、掃除や、目の前のゴミを拾うこと、靴を揃えること。このような、何気なくとも、実は身につけてはいない、習慣を「体におとし込む」ということでした。

大阪に帰ってから、いろいろと、被災地に学ぶ会での活動を振り返っていると、自分の心の中が変化していくのを感じました。いい事は、遠慮せず、恥ずかしからずしてみようと思うようになりました。それから、毎朝、自宅の前の掃除、近所のゴミ拾いをするようになりました。以前の職場の近隣の小学校に御挨拶に行った時に、朝の通学児童の安全を守るためにお手伝いをさせていただけお願いをしました。それから毎朝、学校の校門に立ち、あいさつと児童の登校安全指導をさせていたただくようになりました。

今回もたくさんの方の学ばせていただきました。まずは、「チーム」という意識です。大谷先生を中心に取り組む、賢弟のような若い方たちがいらつしやいます。すぐ行動できる若い方々の素早く献身的な行動力に感動します。そして、この会を見えないところで支えていただいていることに気づき、感謝しております。また、その周りに、いろいろな方々が、同じ思いをお持ちになり、四十六人が一体になって、活動できたように思います。私は、毎回、この何ともいえない不思議な連帯感につつまれていることをなんとも心地いいものだと思っております。そんな、チーム「復興地に学ぶ会」は、様々なお方やものを呼び寄せます。

門脇小学校前校長の鈴木洋子先生に来ていた

だけ、被災して焼けただけだた小学校をご案内していただきました。日々の防災訓練の大切さ、そして、全児童の安全を守りぬくことを教わりました。被災時に雄勝小学校でお勤めになっていらした藤坂先生からは、子どもたちの命を守るための強い思い。そして、雄勝町から石巻市街地まで三〇Kmにもなる道のりを救援を求めて歩かれた体験談を伺い、

卒業生からの手紙を読んいただきました。震災を受けた多くの子どもたちと、先生方は、どんな思いをもって、いまだ生活をなされているのでしょうか。お聴きしていると噂の奥が熱くなりました。先生のお姿から、一教師としての姿勢と覚悟を学びました。

鹿妻小学校で、清掃の奉仕をさせていただいてるときには、たくさんの差し入れをいただき、サッカーに来ていた地元の子供たちからは、感謝の言葉をいただきました。さらに、毎回、大谷先生から、バスの運転手さんたちの、プロとしての仕事ぶりや普段、当たり前前に感じていることの中からも気づきと感謝を知ることを知っています。そんな我々に、バスの運転手さんたちから、アイスクリームの差し入れまでいただきました。今回も帰宅後、振り返ると、たくさんの「気づき」を得させていただき、学ばせていただきました。私が感じたことや考えたことは、もう他の多くの

方々が既に感じ、考えられるようなことでしょう。でも、私の心の中で気づいたことは、私の心の貴重な財産になっていきます。また、行動の中で反省すべきところや、自分が至らなかつたこともたくさんありました。これからの日々の日常生活の中で、この経験を活かして、よりよい心を持てるようになりたいと思っております。皆様、どうもありがとうございます。

★★★大阪府20代 男性★★★

第十二回復興地に学ぶ会に参加させて頂き、ありがとうございます。今回、バスの到着時間がとても早く、途中渋滞があつたのにも関わらず、十二時間かからずに石巻に到着しました。私が寝ている間に、どれだけバスの運転手さんが頑張られたのかを考え、自分が何かしたとかは、本当にどうでもよいことだと感じました。ただ謙虚にさせて頂こうと胸に決めました。

門脇小学校へ入らせて頂きました。三月十一日以前の防災教育についてもお話を聞かせて頂きました。普段から行われていた避難訓練では、保護者の方に引き渡すまで、徹底してされていたとのことでした。また避難訓練で校内放送を使っている場合、緊急時は校内放送が使えないという想定が必要だということ。自分の甘さを感じずには

いられませんでした。

大川小学校にも立ち寄らせて頂きました。石巻へ出発する金曜日に、「さようなら」と学校でいつものように挨拶をした子どもたちの顔が浮かびました。何か理由をつけて、子どもたちに愛を注ぐのを十分にしていない自分に気がつきました。月曜日の朝には思い切り抱きしめて挨拶しようと思えます。

今回、大谷先生から事前に頂いたメールに「持つて来てはいけないもの『義務感』と書かれてありました。それを見たとき、ふつと肩の力が抜ける気がしました。私は、いつも「しなげばならない」とか「こうあらねばならない」というように強く圧力をかけるかのように考えている自分がいることに気がつきました。しかし、学べきはやり方や形ではなく、そこに込められている想いであつたり、心の部分であつて、自分の考え方は少し違うのだなど出発前に気づかせて頂きました。帰りのバス車内でも宮崎先生が、「気負わずとも、皆様に優しく包んで頂いているのです」とおっしゃっていました。まさにその通りであると感じました。とても心がスツキリとしています。ありがとうございます。

また、今回もたくさんの方々を支えて頂きました。参加出来ないからと、おハガキを下さつたり、メールを下さつた方もおられます。感謝感謝です。

ありがとうございます。

伝えようとするのではなく、自分自身が日常を懸命に過ごしていれば、それがきつと伝わる。今回の大きな学びです。皆様、ありがとうございます。

★★★大阪府20代 男性★★★

今回初めて、『復興地に学ぶ会』に参加させて頂きました。震災直後から、ずっと被災地支援に向かいたいとは思いつつも、忙しさや経済的なことを言い訳に被災地に赴くことがなかった為、今回このようなチャンスを頂き、心から感謝しております。

実際に自分の目で見た震災の傷跡は、想像を遙かに上回るものでした。『言葉にならない』感想はそれ以外に上手く表現できません。当初に比べたら瓦礫もかなりの量が処分され、だいぶ復興しているように見えますが、本当に大変なのはこれからだと感じました。最近では復興地に関する話題といえば原発関連の話が多く、今、立ち上がるうとしている太平洋沿岸の各所の現状については随分と減少してしまいました。しかしながら、門脇小学校の鈴木前校長、藤坂先生、浅野さんのお話を伺い、これから街を再建するだけでなく、被災者の心を再建するのがどれだけ難しいこと



かということを感じました。

私たちができること、伝えられることが何なのか、まだまだハッキリとはわかりません。でも、今の当たり前の生活が壊れたときに始めて、当たり前の生活のありがたさがわかるのだと思います。また、ありきたりな生活をつまらないと思っ

ている裏で、その日常を作ってくれている多くの人がいるということも忘れてはなりません。だから、これからはもっと感謝の気持ちを持って生きたいと思います。ありがとうの気持ちは言葉や行動で伝えたいと思います。大谷先生、金先生はじめ、『復興地に学ぶ会』メンバー全員の優しさに囲まれて、とても温かい気持ちになれた三日間でした。本当に参加させていただき、ありがとうございました。是非今後ともよろしくお願い致します。

★★京都府70代 女性★★

日本を美しくする会、便きよう会、掃除に学ぶ会の皆様、感謝感謝申し上げます。深くお礼申し上げます。

今回は鈴木元校長先生のお話は心に残りました。色々と学ばせて頂きました。鹿妻小学校の先生のお話も心打たれました。子どもさんのお手紙にはなみだが出ました。早く石巻に帰れるといい

ですね。

学校のトイレ掃除や草取りは毎日の仕事です。私にはびったりでした。大学生や先生には頭が下がります。メンバーの中に熱血先生が多いですね。こんなすばらしい先生に教えていただく子どもさんは幸せですね。日本人の底力を出してください。学生さんたちは立派な社会人になりますよ。

運転手さん神業です。ありがとうございます。大谷先生の神業が色々なところであらわれています。楽しいメンバーでした。

大谷先生、メンバーの皆様ありがとうございました。感謝感謝申し上げます。またお逢いする日を楽しみにしております。八月も参加させてください。よろしくお願い致します。合掌

★★京都府20代 男子大学院生★★

先月に続いて二度目の参加をさせていただきました。前回も(おそらく十二回とも)仰った

「我々は乗っかっていただけです」という大谷先生の言葉を改めて実感しました。尼崎駅を出発した直後は途中道路工事による渋滞がありうるという話だったにも関わらず、バスの新西さん、井上さんの運転のお蔭でむしろ日程表よりも早い時間に石巻まで連れて行っていただいたのは大変驚きました。また、宮城県内の掃除に学ぶ会

の方々、朝晩二度も会いに来てくださった浅野さん、今回行けないと思っていたおしかのれん街の石森さんはじめ多くの方が駆けつけて下さり、昼ごはんにと差し入れもいただいたことにさらに驚きました。大谷先生が「我々の心が通じたのだと思います」と仰っていましたが、その「我々」とは今回のバスに乗った人だけではなく、昨年の震災直後から現地で活動されてきた掃除の会の方々まで全て含めた言葉だと思います。その意味で諸先輩方の活動の上にも「乗っかって」もらっており、今後後続の人にも「乗っかってもらう」、せめて「振り落とさない」くらいの行動は自然にとれるようにになりたいと思いました。

今回は鹿妻小学校の清掃活動で私は午前中が二階のトイレ掃除、午後がプールサイドの除草にあたりました。トイレ掃除では最後の時間にゴミ箱を洗う仕事を担当したのですが、内側外側のそれぞれ四面を自分としては磨いたつもりでいたのに実際には簡単に落ちる汚れが少なからず残っていたということがありました。普段からの積み重ねがまだまだ必要なことを石巻まで来て思い知らされるという結果になったことが反省点でした。

今回は石巻の方々から震災直後やその後の状況についてたくさん話を聞かせていただきました。石巻に着いて最初に門脇小学校で鈴木前校

長先生から当日の話を伺った後特別に日和山ま

での避難経路を案内していただきました。坂を登り始めたばかりの部分は傾斜が少し急になっており、「急げ、急げ」という言葉を聞きながらそこを登る子供たちにとっては短い時間も長く感じられたのだろうかと思像していました。上から見るとすぐ正面に海が、左側に北上川が流れていました。「あの道を通って津波が押し寄せてきました」と聞き、目の前に見える穏やかな姿とは対照的な震災当日の状況に言葉が浮かびませんでした。

また鹿妻小学校では藤坂さんの体験談をお聞きました。「心のケア」というような言葉を耳にしますが、実際に話を聞くと学校が再開した後の子供たちの様子が衝撃を受けました。家族や友人をお別れもあまりできないまま亡くしたり住む場所などの環境が変わったりと言葉にすると短いですが、その具体的な中身はとてつもなく重いものだと改めて知らされる話でした。

今回は帰った当日に個人的な用事もあり尼崎まで一緒に帰れなかったのが少し残念でしたが、今回は最後まで一緒に帰ることができたのも嬉しいことでした。帰りのバスの中で発表された今後の予定では私が次に石巻へ行くのは早くても三ヶ月後となり今回よりも期間が空きます。その間関西から東北へ思いを絶やさず寄せ続けてい

こうと思っています。

#### ★★京都府20代 男子大学院生★★

今回、復興地に学ぶ会に初めて参加させていただきました。新洗組の先輩の相賀さんが、ご自身の研究もお忙しそうなのに何度も東北まで足を運んで活動しておられる様子を見て、自分はこれくらいの忙しさで何しているんだと思ったのがキッカケでした。振り返ってみると、去年の六月に一度支援活動に行っただけ、いつの間にか自分の生活のことしか頭になく、特に最近「まあいいか」という言い訳と妥協が目立ち、大学院の研究室生活にもあまり身が入らず、緩慢な生活をしている自分がいました。ちょうど森信三先生の一語の五月二十六日の言葉が、『感覚を新鮮にするには、つねに異質的なものを媒介として自己を磨く必要がある。でないと感覚はいつしか鈍磨して、マンネリ化する恐れがある。』となっており、自分のマンネリ化した生活に喝を入れたという思いで参加させていただきました。

午前中は、鹿妻小学校周辺に新しく建てるコミユニティハウスの小さなガレキの撤去を行いました。横一列に並んで、両手を広げた範囲くらいを少しずつ真っ直ぐ進んでいきましたというものでしたが、なかなかガレキが見つからず、私

はいつの間にかあっちこっちとバラバラに進んでいきました。途中で、少し掘りながら探すと小さな破片が結構出てくることに気がつきました。そしてちょっと周りを見てみると、土作さんが少しづつ、丁寧に真っ直ぐ進んでいました。私は地道に進むことをやめてしまい、バラバラに進んだがために自分や人がやったところを二度やるはめになったりして効率的でなく、この辺りにも自分の身勝手な部分が出てしまっていると、すごく反省しました。

午後は、プールの草取りの後、現地の藤坂先生が被災された時のお話をしてくださりました。思いうすつらいに話してくださっている、にもかかわらず自分はそのままで思い至らず、眠気でウトウトしてしまいました。東北まで何しに来たんだと、本当に情けなくなりました。

そんな中、最後に大川小学校へ向かいました。朝見学させていただいた門脇小学校とともに、一年前とほとんど変わらない姿が衝撃的でした。自分は日々どれだけ楽をしようとして、ほんの些細なことで不平不満をもらしているか、有り難いことを当たり前のように暮らしてしまっているかを思い知りました。帰り道、沈んでいく夕陽がとてもきれいでした。

また、大谷先生はじめ参加された皆様の支援活動への姿勢、バスの運転手さんや現地の方々、支

援してくださいっている方々への深い思いやりや  
心配りがすごく勉強になりました。自分のダメな  
部分がたくさん見えて少し逃げ出したくもなり  
ましたが、参加させていただいて本当によかった  
です。普通の生活がとても多くの人に支えられて  
成り立っていて、有り難いということを忘れず、  
先生方のように自分中心ではなく周りの人と思  
って行動できるように日常生活を変えていきたく  
と思います。本当にありがとうございます。

★★京都府20代 男子大学生★★

僕は今回で二回目の参加となります。二回の参  
加を通して感じたことを三つお話しします。

一つ目です。帰りのバスで大阪産業大学野球部  
の監督が言っていた言葉に凄く共感しました。

「自分の中に想いが生まれる。次に伝えたい人が  
できたら、自分が動けるようになる」。僕は前回  
被災地から帰って久しぶりに会った友達に被災  
地のことを伝えようとしたときに「どうせ就活の  
ネタ作りのためでしょ？」と言われました。その  
ことをきっかけに無関心な若者に現地のことを  
伝えて、被災地へ心を寄せて欲しいと思うよう  
になりました。そして、とても良い縁があつて、  
ある演出家の方に南三陸町のエピソードを舞台  
で披露するから出てみない？とお誘いを頂き、引

き受けさせて頂くことにしました。そして今回も  
前回と同じようなことがありました。学校の食堂  
で「被災地行ったんでしょ？意識高いね」と言わ  
れ、その言い方は決して関心を抱いている口調で  
はなかったです。そう言われた後この子にも舞台  
を見て欲しいと思ったんです。この時気付いまし  
た。監督さんが言ったように伝えたい人ができ  
たら動けるんだって。

二つ目は、門脇小学校で実際に当時の避難経路  
を歩いていたときに、門脇小学校前校長がおつし  
やっていたことです。「地震発生当時は校内放送  
が使えないから肉声で伝達するしかない。高学年  
が低学年をブルーシートで囲って雪から守って  
いて、子供たちの力を感じた。生徒の名簿を持っ  
て逃げたため確実に点呼をすることができた。日  
常でできる以上のことは本番ではできない。普段  
の訓練をどれだけ真剣にやれるかが大切だ。子供  
たちに自分で判断し、生きる力を付けさせること  
が必要」。自分の地元や母校は大丈夫かすごく心  
配になりました。行事ごとになっている避難訓練  
をただこなすものではなく、先生・生徒の意識を  
変えて身になるものにしていくことが本当に必  
要であると感じました。

最後に二回の学ぶ会参加で感じたことは、生き  
方です。学ぶ会に参加されている方は、学んだこ  
とをすぐに実践し、自分の日常を変えている人た

ちが多くいると感じています。そんな方々と一緒  
に行動していると、自分に足りないところが嫌と  
いうほど見えてきます。しかし、それが凄くいい  
刺激になっていることを被災地から帰って日常  
を過ごしていると実感します。自分の中でもほん  
の少しですが意識が変わって来ました。特に感謝  
の気持ちを伝えることは、以前はできていなかっ  
たことで、友達にも小さなことでも「ありがとう」  
と伝えていて自分に気が付きました。先生方に比  
べたら本当にまだまだ未熟ですが、これからもど  
んどん学んだことは実践していき、日常を少しず  
つ変えていくことで人生を変えていきたいなど  
思います。参加させて頂きありがとうございます。

★★京都府20代 女子大学生★★

東北大地震が起こり何もできないまま一年が  
たち、自分の中の意識が薄くなり始めているの  
を感じていました。そんなとき、旅行で訪れたヨ  
ーロッパのある国で突然現地の人に「日本は大  
丈夫だったか。」と声を掛けられたのです。「君  
たちの家族や友人は無事か。まだまだこれから大  
変だと思うけどみんなが応援しているから諦め  
ずに頑張るんだ。」と、こんなに遠い国の人も被災  
地を心配してくれているのだと気が付きまし

た。帰国してからは今まで以上に真剣に何か自分にできることはないかと考えるようになり、やはり自分の足で被災地を訪れたいと思っていたときちょうどこの復興地に学ぶ会のことを知り、これは何かの縁に違いないと思い参加させて頂きました。

石巻市に到着して門脇の町を見たときは、地平線が見えるほどのただただ広がる何も無い風景に言葉を失いました。あるべきはずのものはすべて津波で流され、墓地であったと思われる所にだけたくさんの墓石が積み重なっているという異様な光景は恐怖を感じるほどでした。しかしバスを降りてすぐ、その何もないと思つた土地には人々の長年の生活の跡がたくさん残っていることに気が付きました。地面には食器、写真立て、ビデオテープなど、バスの窓からあるいはテレビのニュースからでは決して分からない人々の営みの痕跡が色濃く残っていたのです。津波による火災で全焼してしまった門脇小学校にも焦げた机や椅子、上履きやランドセルまでもが残っておりここにもまたたくさんの生徒たちや先生方の日常生活の面影がはつきりと焼きついていて、これだけの人々の生活がある日突然失われてしまったのだと思うと本当に心が痛くなりました。鹿妻町では復興支援ボランティアということまで瓦礫の撤去と小学校のプールサイドの草ひき

をさせてもらいました。瓦礫の撤去とはいえ、一センチほどの小さな窓ガラスの破片や食器や瓦のかけらを手で一つ一つ拾うというもので、また草ひきというのも大した作業でないように思え、想像していた支援活動との違いに最初は戸惑いましたが、実際に活動を行うにつれこれが現地でも本当に望まれていることなのかもしれないと感じるようになりました。大きな瓦礫を撤去し終えた後に残つたこの小さな破片を自然の土や石と区別しながら取り除くというのは、やはり人間の手でなければできないことです。プールの草ひきも、口で言つてしまえばただの草ひきですが、震災のあつた昨年の夏は授業ができなかったというこのプールが、こうして雑草を除去すること今年度の夏はプールの授業ができるようになるならば少しは役に立てたような気がします。五時間ほどの短い作業でしたが、改めて自分のできることの小ささを実感したと同時に、しかし何もできないわけではないと学ぶことができました。いま京都に戻り、日常生活の中で被災者の方々のために私にできることは何なのだろうと考えても、残念ながら直接的な支援は何も浮かんできません。もしいま私が石巻の近くに住んでいたら、毎日でも小さな瓦礫を拾いに行ったり、定期的にプールの草ひきをしたり等他にもやりた

私にできることと言えば、日々の節電やゴミの削減・分別をより徹底するなど復興地支援とは程遠いようなことくらいです。それでも今回学んだ「小さくとも無力ではない」ということを忘れずに、被災者方々が少しでも早く笑顔になれるように、諦めず自分なりの活動を続けていきたいと思つています。最後になりましたが、今回の活動の様々な場面で現地の人々の温かいお気持ちとお支えを頂きました。本当に心より感謝致します。また大谷先生をはじめ、この学ぶ会にご尽力いただきましたすべての方々、本当にありがとうございました。

★★★大阪府20代 女子大学生★★★  
今回、私がこの日本を美しくする会が出すバスに乗せていただくのは四回目でした。今回の私の目標は、人のために動くということがどのようなことなのかということを知り、学びに行くということでした。私はボランティア活動をするたびに、これは本当に人のためにといいことと思つてやっていると、自己満足でやっているのがわからなくなりました。何か自分のできることを見つけたら、一心で活動に参加し、何か人の役に立つたような気がして、喜んでいただけではないのかと思うのです。被災地でボランティアをするときは、瓦

礫の撤去など、目に見えて少しでも役立つていることがわかりやすい作業が、今までは主でした。しかし、今回は、小学校の清掃とトイレ掃除ということで、見る人によつては、何でそんなことで、ボランティアとして、支援金を使い、わざわざ東北に行く必要があるのかと思われる内容だと思います。だからこそ、本当に人のために動くというのは、どのようなことかというのを、真剣に考えるべき回だったと思います。しかも、今回の活動は、現地の方にわざわざ時間をとっていただいて、私たちのために震災当時のお話をさせていただいたり、私たちが活動できる場を提供してくださったり、差し入れをいただいたりと、本当に私たちがボランティアをしに行ったのか、ボランティアをされたのかわからないほど、していただいたことばかりです。活動させていただく中で思ったことは、今回わたしたちが東北に行つてさせていただいた活動の内容には賛否両論あると思いますが、一つこれだけは確実に言えるということは、せつかくこのようにたくさん貴重な経験をさせていいただき、学ばせていただいた存在として、命の無駄遣いだけはしてはいけないということですね。確認するまでもありませんが、震災というのは、人の命をたくさん奪っていききました。だからこそといつては何ですが、このように人々の心に訴えかけ、人々に動くエネルギーを与えるもの

となつているのだと思います。震災当日、起こつていたことの数々はすべて、人の命を守れるか守れないかの瀬戸際でした。そして、生き残った人が今、こうやつて大阪から来る私たちに伝えたいことは、命を大切にということではないでしょうか。大雑把に言い過ぎかもしれませんが、現地の方が私たちに伝えてくださることの根本には、命を大切にというメッセージが込められていると思います。この命というのは、ただ寿命が長くなればよいというものではなくて、生き活きと生きるということも含まれていると思います。

私たちに震災当時のお話を聞かせてくださった、門脇小学校校長先生の鈴木先生や鹿妻小学校元教諭の藤坂先生、わざわざ差し入れを届けてくださった仮説商店街の魚屋さん、お掃除に参加してくださった宮城掃除に学ぶ会の方、道の駅まで足を運んでくださった浅野さんなどみなさん活き活きしていらつしやいました。そのような姿から、私は元気をいただくとともに、活き活きと日常生活を送っていない自分にも気が付かされます。現地の方々は無意識のことかもしれませんが、活き活き生きる姿を私たちに見せることによつて、命を大切に日常生活を大切に、活き活き生きてほしいという願いも私たちに伝えてくださっていると思います。口下手で、先生のように、学校で伝える機会がない私にできることは、

まず自分が一生懸命に生きることだと思ひます。ここで思い出されることは、池間哲郎先生がいつもおつしやつている、最高のボランティアは、自分自身一生懸命生きることということです。私は、池間先生がおつしやる内容をなんとなく理解しているつもりでいましたが、今回学ばせていただいたことをもつて、やつとその意味が本当に分かつてきたように思ひます。

人のために動くというのは、その人のことを思い続け、そして、その人が願つていようように生きるということに尽きるのではないかと思ひます。最後になりましたが、今回復興地に学ぶ会に関わつてくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

★★新潟県20代 男子大学生★★

私は今回初めて被災地に足を運びました。震災発生から一年以上が経過しているのです、被災地の全域で復興に向かつているのだろう、自分たちはそのお手伝いをさせていただくことになるのだろうなど漠然と思つていたのですが、現実はその姿を見ると、本当に言葉が出ませんでした。テレビなどのメディアで映し出されている映像が目の前にあり、言葉にならない衝撃がありました。

当時の鈴木校長先生からお話をお聞きし、実際に子どもたちと教職員がたどった避難経路を歩くこと、当時のことが想像できて、不思議な気持ちになりました。日和山からの眺めは、震災前の写真と比べて実に悲惨なものでした。

鹿妻小学校での活動では、地元の方々がとても元気に関わってくださっていましたし、子どもたちもサッカーや野球に一生懸命に楽しく取り組んでいた姿が見られました。いい意味でも自分の想像を超えていた被災地の現状でした。現地の方からもお話をいただきました。ボランティアに来ていただけるのはとてもうれしい事だが、ボランティアの方々がいなくてもやっていると聞いている復讐を目標にして頑張っておられると聞いて、複雑な心境があるのだと思いました。また、若い方に来てもらえるのは本当にいいこと、とおっしゃっていました。それに貢献できるように、私もこれから自分の周りから情報を広げて、より被災地への関心を持ってもらいたいと思っています。最後に訪れた大川小学校の姿は、しっかりと目に焼き付いています。大勢の教職員と子どもたちが津波に流されてしまったこの学校は、被災当時の姿のまま残っていると聞きして、心からご冥福をお祈りして黙祷しました。

今回の被災地訪問では、被災地の方々の言葉が重く感じられました。また、自分の小ささ、震災

の恐ろしさ、人と人とのつながりを感じる事ができて、本当に良かったと思います。関西で教職を務めておられる様々な方と色々なお話もできました。自分のためにも、被災地のためにも、これからもボランティア活動に参加していきたいと思っています。貴重な経験をありがとうございます。

★★大阪府20代 男子大学生★★  
被災地の方々へ。

今回、二泊三日石巻ボランティアに参加させて頂きました。まず最初、土曜日の朝に石巻に着いて門脇小学校に足を運んで見たのですが今回三回の参加で何回も見たのですが、言葉を失ってしまいます。その後、門脇小学校前校長の鈴木洋子先生に着て頂いて当時地震が起きたことにお話しを聞きました。その話を聞いて想像すると、津波の恐ろしさがこんなに凄いと感じてしまいました。もし自分が門脇小学校の近くにいたら、パニック状態になってしまい何をしたら良いのか分からなくなります。

その後、鹿妻小学校に到着して班に別れて学校周辺の掃除などを行いました。自分は校庭で草抜きを行いました。班に別れたメンバーは野球部が多かったのですが教師の方と一緒にだったので

少しお話しながら作業しました。貴重なお話聞けて良かったと思います。

お昼は鹿妻小学校の野球部と少年野球教室を開催しました。ノックやバッティングなどを行いました。子供達のプレーを見て感じていたことは、自分もこんな少年にプレーしていたなと思いました。子供達の笑顔なプレーを見れて良かったと思います。少年にお話聞くと昨年九月に野球教室行ってつらかったことは？少年に聞いてみると練習出来ないより大会に出れないことが凄く辛いと聞きました。震災の影響で大会が開催されなくて可哀想だと思いました。しかし、今年は大大会が開催されて試合ができるので是非石巻のために優勝して欲しいと思いました。自分は当たり前のように小学校から現在まで野球をやっているけど、こうやって野球できているのは親のお陰だと思っています。いつまで野球できるか分かりませんが感謝の忘れずに頑張らなくて行けないと思います。三日間と短い期間になりましたが貴重な経験が出来たと思います。もしよければ秋リーグが開催されるのでお時間があれば来て下さい。ありがとうございます。

★★大阪府20代 男子大学生★★  
僕は今回初めて石巻の方にかかせていただいた

たんですか、バスで移動中にここはあんまり被害がないやなあと思っていたらある場所を境に景色が一変しました。僕はすごく衝撃をうけ、災害の恐ろしさを痛感しました。はじめの門脇小学校にいったときに元校長先生の方にお話を聞き、その先生は普段からなにごともいいよおに準備することが大事だといっていました。僕は高知県出身です。何十年かの間には南海大地震がくるといように予想されています。今回お話を聞いたことを両親に伝えてしつかりと準備していかないといけないというふうに感じました。いろいろいろいろなかたのお話を聞いたのですがどの話も心にぐさつとくるようなお話ばかりです。でも心がいたかったです。話をしてくださったかたも震災にあい苦しい思いもたくさんまだ心の傷も癒えてない状態だったのにも関わらずあんなに貴重なお話を聞くことができ感謝の気持ちでいっぱいです。

お昼からは小学校の野球チーム『小鹿クラブ』のみんなと一緒に野球をしました。子供たちはがむしやらに楽しそうに白いボールをおつかげグランドを元気よく走り回っていました。僕も自分の小学校時代のことを思いだし、初心に変えられたように感じました。子供たちに『野球は好きか?』『将来の夢はなんや?』ときくと『大好きです。』『プロ野球選手になりたいです。』というような

答えが返ってきました。子供たちには野球が好きだという気持ちを忘れずに夢に向かって精一杯努力してほしいと思います!野球教室をしたことによって、逆に子供たちからたくさんの元気をもらいましたし、僕も夢に向かって精一杯努力しようという気持ちにさせてくれました。本当にあの子たちと野球教室ができてよかったと思います。

僕は今回石巻のボランティアのお誘いを頂いたときに、遠いなあ!バスで十三時間はしんどいなあ!などという気持ちが心のどこかにありました。しかし今回いかしていたでそういう気持ちもまた行きたい!という気持ちに変われる自分がいます。この三日間を通して自分は少しでも成長できたのではかいかと思います。普段こいうやって当たり前のことを当たり前にできているということに感謝し日々過ごしていきたいと思えます。本当に貴重な体験をすることができたのでよかったです。本当にありがとうございます。

★大阪府20代 男子大学生★

今回自分たち(産大野球部)は午前鹿妻小学校で枯れた木を抜く作業を、午後には野球教室をさせていただきました。前回自分が行かせてもら

った時も約一年前で、鹿妻小学校で作業をさせていただいたのでなにか懐かしくも思えました。あの時はまだ被災された方がまだ体育館で生活していた時で、一泊させてもらった翌日に体育館の清掃活動をさせていただいた場所でもありました。その体育館では今はもちろん生活している方たちはおらず、子供たちが学ぶ普通の学校としての姿が見えました。今回の作業は班に分かれた後、大木先生の指示によりさらに班を分け効率よくすることができました。作業をしているときでも色々な事をお話できる機会があり、楽しく作業を行いました。今後は自分たちが枯れ木を抜いた場所に花を植えるそうです。HPにアップすると校長先生はおっしゃっていました。やはり自分の目で実際に見てみたいという、次回に機会があれば鹿妻小学校へ行かせてもらった時の楽しみができました。

午後からの野球教室では、元気な子供たちが自分たちを向かえてくれました。その中でも自分が一番嬉しかった事は、一緒にキャッチボールをやるときに自分の事を覚えていてくれて一緒にやろうと名前を呼んでくれてきた少年がいました。その子は今は五年生です。来年もぜひ野球教室をさせていただき、その子の最後の年、自分も四回で最後の年、最後のキャッチボールを実現したいです。

今回の石巻ボランティアでは、ご縁の大切さを再度認識しました。つい最近、大学へ入学してから一緒に暮らしていた祖父を亡くしました。その祖父は生前、ご縁をとっても大事にする人で、よく言い聞かせのように自分に話をしてくれました。今ではその話を頭の中でさらに強くなって残っています。今回の石巻ボランティアでいただいたご縁を大切に、そして今までのいただいたご縁、さらに今後出逢うだろうご縁、一期一会を大切にしていき、これからのまだまだ長い人生に繋げていきたいです。ありがとうございます。

★★大阪府20代 男子大学生★★

復興地に学ぶ会に参加させていただいて今回で五回目になります。今回も希望者が多く四人の方が参加する事ができなかった方たちの代わりに参加させていただきました。有難いことです。今回は門脇小学校に特別に足を踏み入れさせていいただいて、鈴木先生の震災当時の出来事の話を書かせていただきました。震災の影響で門脇小学校の教室の中はまだ手付かずのままです。リアル感がとても伝わってきました。特に心に残ったのはメチャクチャになった教室ではなく鈴木先生の言葉でした。「日々を大切にしていなければ本当に事が起こった時はそれ以上のことは望めな

い。」鈴木先生は防災教育の事を言っていたのですが、その言葉は防災教育にとどまらず、私たちの野球や生活にも言えることだと思います。結果や成果をあげるためには日頃の練習や生活を大切にすることだと学ばさせていただきました。

午後からは子鹿クラブの子供たちと第二回野球教室をしました。私たちは技術はもちろん元気のよさを伝えるつもりですが毎回逆に、子供達に元気をもらってしまいます。あの子達の野球をしてる姿を見ると初心に戻ることができ、気づかさられる事ばかりです。子鹿クラブの皆さんありがとうございます。勝とうという気持ちが強いチームが必ず勝ちます。

五回も足を運ばさせていただきましたが毎回、毎回違う体験を学ぶことができました。この経験は必ず社会に出てからも生きてくると思っています。来年からは社会人で右も左も分からないと思います。来年からは社会人として自分をものにし存分に発揮していきたいです。

最後に一つ、震災から一年が過ぎ、メディアは当時よりはあまり復興地の事を取り上げることが少なくなってきました。メディアは報道するところが少なくなってきましたが、私たちは現地で体験し肌で感じてきました。その体験や肌で感じたことを伝えることが私たちの使命だと思ってい

ます。より多くの人に知ってもらい現地の人たちの想いを伝えていきたいと思います。出会いに感謝します。ありがとうございます。

★★大阪府20代 男子大学生★★

今回、初めて石巻にボランティアに参加させていただきました。自分自身、石巻のことは、テレビやニュースでみることしかありませんでした。しかし、実際足を踏み入ると、テレビでみただけとは違って、正直、ショックでした。一年以上経っていてあまり変わっていません。人間の力のなさを知ることができました。石巻について、現地の先生の話が聞きました。その話を聞いて今自分が当たり前のように過ごしているものなのかと感じました。ですが、現地の人はそんな被災したことを感じさせずに凄い元気で笑顔がありました。自分は嫌なことがあればすぐに逃げ出したりするのが情けなく感じました。また野球教室で小学生と野球をしました。そのチームの小学生の中にも家がなくなった小学生もいました。ですがそんなこと感じさせずに好きな野球を笑顔でたのしくしていました。逆に自分達が勇気をもらいました。こういった気持ちで自分達、大学生にも必要だと思いました。被災地の子どもとても気持ちが強くともしつかりし



ていました。当たり前のことは当たり前に出来ることを感謝しながら一日一日大切にしたいとおもいます。こうして被災地に行つて感じることや学ぶことができました。実際に行つてみてわかることや感じる事ができるので、今回ボランティアに参加して凄くいい経験になりました。一緒に参加していただいた先生の皆さん本当にお世話になりました。ありがとうございます。

★大阪府20代 男子大学生★

今回が初めて復興地に学ぶ会に参加させていただくという事で、色々な人から話は聞かせてもらっていたのですがあまり石巻の状況が分かっていませんでした。震災から一年過ぎたということもあり、復興が進んでいるのかなと思つていましたが、いざ自分の目で見て肌で感じてみると震災から一年経つた今も想像以上のものであり、言葉では言い表せないものでした。

午前中は門脇小学校で震災の話を聞かせていただきましたし、その当時の震災の恐ろしさを話を聞かせていただくだけでも伝わってきました。その話の中で何事にも予期せぬことが起こった時に冷静に対処できる自分ではないといけないなと思われました。その後は鹿妻小学校で校庭の掃除をしました。一人ひとりが本当に丁寧に作業を

して、単なる掃除ではなく心をこめて作業をしているなと思いました。作業の内容からすると時間は掛かりましたが、それは一人ひとりが丁寧に細かい部分までできていたからではないかなと思います。

午後からは野球教室を行ったのですが小学生たちは自ら大学生にキャッチボールをするにしても自ら声を掛けたり、質問したりして積極的に参加してくれて野球というスポーツを通して心を繋げることができましたし、本当に一生懸命な姿や野球を楽しむ真っ直ぐな心を見て自分が元気をもらいました。自分と照らし合わせて見ても学ぶべきことが多く勉強させてもらいました。一緒に石巻に行つた方々や現地の人など多くの人に支えられながら貴重な体験ができましたし、人と人との繋がりがであったり、人の温かさを感じる事ができました。今回参加させていただいて経験できたことを今後の自分の生活の日々に生かしていきたいです。

★大阪府20代 男子大学生★

僕は今回が二回目のボランティアとなりました。前回行った時とは違い今回は前回の経験を生かしつつ、新しいことが学べたらいいなと思ひ参加しました。

今回は門脇小学校で元校長先生の話を聞きながら地震があつた当日の避難経路を案内していただきました。元校長先生の話を聞いていて思ったことは避難訓練を真面目にやらないといけないなと思いました。急に大きい地震が起きると頭の中が真っ白になり、何がなんだかわからなくなるそうです。しかし、門脇小学校では普段の避難訓練からしっかりとやっけていて地震の当日も引き渡しなどに長い時間はかからなかったそうです。

門脇小学校の次は鹿妻小学校で清掃と野球教室を行いました。野球教室では小学生と一緒に野球を行い、小学生のほうから積極的に話しかけてきたりしてとても楽しく野球をすることができ、初心に戻れた気がしました。今回のボランティアに参加することを両親に報告したところ、快く行つておいでと言ってくれ、バスの運転手さんも往復二十六時間もの長時間バスを運転していただき、ボランティアに行けているのは色々な人の協力があつてのことだと改めて感じました。このような人たちに感謝の気持ちをもって、また参加する機会があつたら積極的に参加したいと思ひます。

★大阪府20代 男子大学生★

今回石巻にいかしていただいたのは三回目です。

した。何回いっても自分のためにもなりませんし、人のためにもなっていると考えたらずきしく思います。バスでの先生方のお話を聞いているといつても違う事を感じさせてもらえませし皆さんの熱意が凄いいわります。僕もそれに負けないようになにをするにもやらなければいけないと思ひます。

今回は作業だけでなく野球教室もやらしていただきました、今回の目標として子供たちに野球の楽しさをわかってもらうというのを目標にしました。目標は達成できたのではないかと自分では思ひます。子供たちと同じように自分も楽しくできました。話をしてもすこい元気で被災にあつた子供たちのようには全く見えませんでした、でもその中でも少し寂しそうな顔をしてる姿もありました非常に心が痛みました、そういう人達を少しでも元気にしたいという思ひが一段と強くなりました、宮城県につれていろいろな人と縁をもてます、この縁はなにかの運命だと思ひます。大阪産業大学にきていなかつたらおそらくこういうボランティアもしてないと思ひ思ひます。このボランティアは人にとつて良いことか悪いことなのかはわかりませんが、僕は人のためになれてるので非常に良いことだと思ひます。人の為にと動く自分にも返つてくると思ひます。見返りをもとめてるわけではありませんが本

当にそうだと思ひます。これから生きていくにしても自分中心ではなくなにか人のために生きていきたいです。貴重な経験を本当にありがとうございます。

★★大阪府20代 男子大学生★★

五月二十五日から二十七日まで初めて石巻に行かせて頂き、まず最初に思つたことは一年以上たつて、まだこんな状態なのかと思ひました。いまだに家はないし、ガレキの山や津波の影響で使えなくなつた車の山があり驚きました。あのような景色が見えてる石巻の人は津波のことを忘れることはないだろなと思ひました。あの津波のことを忘れるということは、できないことなのかもしれませんが忘れるということも大切だと思ひうので、早く忘れられる環境にしないといけませんと思ひました。

二十六日の朝に石巻に到着し午前中は小学校での作業でした。植木の木が枯れていたので、その木を抜く作業でした。作業をしてるうちに思つたことは小学校を卒業していつた卒業生が見てきた木を自分達が抜くのかということと思ひました。ただでさえ、津波で思ひ出が流されてる石巻で自分達の手で思ひ出の物などを減らしていくことは悲しいことでした。ですが、これか

らの石巻を考えると枯れた木を抜いて新たな木や花を植えることも大切なことだということを感じました。

午後からは小学生と一緒に野球をしました。小学生達は野球を純粋に楽しんでいて、自分もこういう頃があつたなと懐かしい気持ちになりました。小学生と野球をして、やつぱり何事も楽しまないといけないと改めて感じました。その時に初めて慣れるということの怖さを知りました。今回、石巻に行かせて頂いて、本当に良い経験をしました。これからの人生に役立てたいです。

★★兵庫県40代 男性★★

今回のキーワードは「日常生活」だったのでないでしょうか。門脇小学校での鈴木洋子先生のお話、雄勝小学校（震災当時）の藤坂雄一先生のお話、すべて共通していた点は「日常生活」以上のことは出来ない。日常を大切にしてくださいということでした。

日本を美しくする会のご支援を頂き、十二回も復興支援活動をさせて頂いて頂いてます。この会の名前をあえて「復興地に学ぶ会」（復興地という場をお借りして、生き方を学ぶ会）と名づけています。「生き方」＝「日常生活」であると考えた時、

この復興地で出逢い、体験し、学んだことを日常生活に落としこむことがより重要であります。毎日の生活の中で、実践し続けることにより、本当の意味が分かり、時間をかけて身に付いていくのかも知れません。確かに、教師として、目の前の子ども達や、関わりのある方々へ伝えることも一つの役割であり、必要なことであります。しかしながら、何を伝えるかではなく、誰が伝えるかということがポイントであることも確かです。さらには、その人の行動から、多くを語らずとも伝わることもあるかも知れません。

今までも、そしてこれからも多くの方々が私たちに協力して下さるのは、教師への叱咤激励のメッセージであると受け止めています。「ボランティア活動してきました」「感動しました」「学びました」で終わると、たんなる「おめでたい集団」であり、「学びオタク」です。行けば行くほど、復興支援活動と言うにはおこがましく、自ら日常生活において実践し、復興地に心を寄せ続けていると改めて感じました。

最後に、鍵山秀三郎先生と村井嘉浩宮城県知事の対談（「致知」六月号）の中で、鍵山先生が引用され心に響きました言葉を紹介します。またこの言葉は以前、寺田一清先生から教えて頂いた言葉でもあります。

『真しん黙もくの音は万まん声せいを貫く』（新井奥邃）

（本当に深い思いというものは、多くを語らない沈黙の中でも万声を貫くのだと。またそこまで深い思いがなければ事は成らないということ。）